

モ一般ニ石碑嶺ニハ北西二十度ニ傾斜シ陶家屯及小河臺ニハ西北西、大頂子ニハ東南東ニ傾斜シテ向斜層ヲナセルカ如シ、炭田ノ區域狹小ニ炭層ノ厚サ薄キヲ以テ炭量多カラサルヘク概算百萬噸ナリ

陶家屯炭坑 ハ寛城子停車場ノ南々東約二十五基米ニアリテ既探掘量六萬噸ヲ越ユルカ如シ、含炭層ハ下部ハ主ニ厚キ白色砂岩、中部ハ砂岩、頁岩ノ互層、上部ハ頁岩ヨリ成リ炭層ハ中部ニ介在ス、植物化石ハ炭層ノ上部ニアル頁岩中ニ埋藏セラレ「ウーライト」紀ニ屬スト云フ、層向ハ南部ニハ北東ナルモ北方ニハ北々東ニ彎曲シ西北西ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ露頭附近ニハ約三十度ナルモ坑内ニハ十二度乃至二十度ニ減ス、二炭層中下層ハ日露戦争前露西亞人稼行シ厚サ二尺乃至五尺アリテ六七寸ノ夾ミヲ有シ兩側ニ於テ縮追ス、上層ハ下層ノ上約二百五十尺ニアリテ厚サ約一尺ヲ有シ重要ナラス、炭層ハ延長一、二基米、傾斜ニ沿ヒ千八百尺ハ稼行スルヲ得ヘク厚サ平均二尺トシ炭量二百萬噸ナリ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ少シク粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重種	類
九三	三一八	五八、九〇	九三四	〇、八七	一、四八二	第三	類

大頂子炭坑 ハ陶家屯、石碑嶺、南炭坑ノ間ニアリテ石碑嶺ノ南東約三基米、陶家屯ヨリ約一、七基米ノ地ニ位シ約七八百噸ヲ探掘シタリ、地質ハ砂岩、頁岩ニシテ北東ニ走リ南東ニ傾斜スルカ如ク陶家屯、小河臺トノ間ニ向斜層ヲナセルカ如シ、一炭層厚サ二尺乃至五尺ニシテ扁豆狀ヲナセルカ如シ、石炭ハ陶家屯ニ於ケルモノニ類似シ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重種	類
一〇、三三	三、三三	五四、〇〇	四〇六	〇、八六	—	第三	類
八五	三四六八	五〇、〇四	六七八	〇、七一	—	全	類

小河臺炭坑 ハ石碑嶺炭坑ノ南西約四基米、陶家屯炭坑ヨリ約八基米

ニアリ、含炭層ハ頁岩、砂岩及蠻岩ヨリ成リ石英粗面岩ニ依リ貫通セラレ黄土ニ依リ被覆セラル、炭層ノ層向區々ナレトモ概ネ北々東ニ走リ西南西ニ急斜セリ

石碑嶺炭坑ハ陶家屯ノ北々東約十三基米、寬城子停車場ノ南東約十七基米ニアリ、十四五年間清人之ヲ稼行シ一年二三千噸ヲ採掘シ東清鐵道會社ノ手ニ移リテヨリ一日三四十噸ヲ採掘セリト云フ、含炭層ハ頁岩、砂岩ニシテ北東ハ玢岩及石英粗面岩ニ接ス、層向ハ北東又ハ北々東ニシテ北西二三十度ニ傾斜ス、炭層ニアリテ約三十尺ヲ隔ツ、厚サハ區々ニシテ中部ニ厚ク兩端ニ薄シ、其最モ厚キトキハ上層厚サ三尺五寸、下層七尺ナルモ南端ニハ一ハ五六寸、一ハ二尺ニ縮迫シ北端ニハ夾雜物多ク且ツ薄層トナレルカ如シ、他ノ炭坑ニ於ケル炭層トノ關係ハ未タ明ナラサレトモ陶家屯炭坑ニ於ケルモノハ石碑嶺炭坑ノ下層ニ該當スルモノ、如シ、炭層ハ延長千八百尺、傾斜ニ沿ヒ約千二百尺之ヲ採掘スルヲ得ヘク平均厚サ三尺五寸及二尺五寸トシ炭量概算百萬噸

ナリ、石炭ハ陶家屯ノモノニ酷似シ普通粘結セサルモ又多少粘結スルモノアリ、分析ノ結果次ノ如シ

層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		性質	種類
							カロリー	英國熱單位		
上層	三、二	三六、八三	五四、七六	五、三〇	〇、五五	一、三二四	六、七〇〇	一、一、〇七八	粘結ス	第三類
下層	一〇、六一	三八、二二	三五、八四	一五、三三	〇、五三	一、四七八	四、九五〇	八、九一〇	粘結セス	全

火石嶺炭田

火石嶺炭田ハ長春ノ北東約八十基米、營城子停車場ノ北約四基米ニアリテ火石嶺及馬家溝ノ二炭坑ヲ包括シ前者ハ後者ノ南西約三、三基米ニ位シ火石嶺炭坑小規模ニ操業シ延長四基米アリ、含炭層ハ頁岩、砂岩ニシテ蠻岩ヲ挾ミ厚キ墟垣ニ依リ被覆セラレテ丘阜ヲナシ其露頭ヲ見ルコト難ク玢岩及石英粗面岩之ヲ貫通シ炭田ノ東部ニアリ、含炭層ハ其埋藏スル化石ニ依リ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、地質構造ハ露頭少ナキヲ以テ明ナラサレトモ北東部即チ馬家溝附近ニ於テハ北西ニ走

リ北東三四十度ニ傾斜シ南西部即チ火石嶺炭坑ニ於テハ西北西ニ走
 リ南々西二三十度ニ傾斜シ恰モ一背斜層ヲナセルカ如シ
 火石嶺炭坑ノ沿革ニ關シテハ記錄ノ徵スヘキモノナキヲ以テ之ヲ
 知ルニ難キモ陶家屯、石碑嶺炭坑ト相前後シテ開發セラレタルモノナ
 ルヘク爾後興廢常ナク千八百九十七年以來坑主屢交迭シ或ハ中止シ
 或ハ再興シ今日ニ至ルマテ僅ニ一萬二千噸内外ヲ採掘シタルニ止
 マレリ、二炭層アリ、上層ハ厚サ一二尺ニシテ重要ナラス、下層ハ上層ノ
 下約二百十尺ニアリ、厚サ一定セスシテ扁豆狀ヲナセルカ如ク最厚十
 尺ニ達ス、炭量小ニシテ概算百萬噸ヲ超エサルヘシ、石炭ハ有煙炭ニ屬
 シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱		種
						カロリー	英國熱單位	
一五七九	三二四三	五二七八	七七五	〇.九六	五二六	九二九三	第三類	
一二七八	三四八六	五二三六	五二二	一一一	四七九〇	八六二二	全	
一六二二	二七四六	五六四三	一一三三	〇.九〇	五九五七	一〇、七二四	第二類二	

馬家溝炭坑 現時露頭ノ檢スヘキモノナケレトモ一ノ厚キ炭層嘗テ
 稼行セラレタリト云フ、炭質火石嶺炭坑ニ於ケルモノト類似ス、分析ノ
 結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱		種
						カロリー	英國熱單位	
四、六三	一三五〇	七二二五	一〇六二	〇.六〇	四、九五	七五五二	第二類一	

五龍屯炭田

五龍屯炭田ハ蛟河或ハ拉發河炭田ト稱シ吉林ノ東南東百三十餘基米、
 蛟河街ノ東南東約十三基米ニアリ、本炭田ハ約三十年前ニ開發セラレ
 現時一日四十噸乃至六十噸ヲ產出シ開發後採掘セラレタル總炭量十
 二萬二千噸ナリト云フ、本炭田ハ南北ニ互レル丘陵地ニシテ頁岩及砂
 岩ヨリ成ル、蓋シ珠羅紀ニ屬スルモノナルヘシ、層向ハ北十度西ニシテ
 西方十度ニ傾斜ス、一炭層アリテ厚サ六尺五寸ナルモ夾ミヲ有シ良炭
 部厚サ五尺五寸乃至六尺ナリ、區域狭小ニシテ炭量約五百萬噸ナリト

云フ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重	發熱	種
10.11	25.95	45.96	17.98	0.44	1.408	5,198	9356	第二類 三

其他ノ炭田

吉林區域ニ於ケル炭田 缸窰炭田ハ吉林ノ北々東約六十五基米ニアリテ約百年前ニ開發セラレ現時一年約一萬噸ヲ產出スト云フ、九炭層アリ、第四層ハ炭質良好ニシテ厚ク現ニ稼行セラル

吉林ノ東北東約二十基米ノ朱家嶺及吉林ノ南東ニアル吳家哨ニ石炭ヲ產出ス

寧古塔區域ニ於ケル炭田 五虎林炭田ハ寧古塔ノ北東約百基米ニアリ、含炭層ハ珠羅紀層ニシテ厚サ二三尺ノ一炭層ヲ埋藏ス、小北溝炭坑ノ產出額ハ一日約十五噸ナリ

寧古塔ノ南東約二十三基米ニアル楊樹林子及佛爺溝ニ石炭ヲ產ス、佛

爺溝ニ於テハ炭田ハ延長九、三基米、幅二、七基米ニ互ルト稱スルモ未タ調査セラレス

局子街區域ニ於ケル炭田 老頭兒溝炭田ハ局子街ノ西約二十四基米ニアリ、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ珠羅紀ニ屬スト云フ、層向ハ北十度東ニシテ東方四十度乃至四十五度ニ傾斜ス、厚サ二尺五寸乃至四尺ノ一炭層アリ、此外二三ノ炭層其下部ニ伏在スト云フ、炭田ノ區域小ニシテ炭量小ナルヘシ、炭質ハ劣等ニシテ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重	發熱	種
8.96	26.50	56.23	8.31	0.47	1.375	5,841	10,541	第二類 三

轉心溝及土山子炭田ハ相隣接シテ局子街ノ南西約七十基米ニアリ、一炭層ノ厚サ五尺乃至七尺ナルモノ嘗テ稼行セラレタリ、土山子炭坑ハ一年五百噸内外ヲ產スト云フ、炭質良好ナラス

局子街ノ北方ニアル缸窰溝ニハ厚サ一二尺ノ炭層アリ
 琿春附近ニハ古來ヨリ粗惡ナル褐炭ヲ産シ目下數箇處ニ稼行スト云
 フ
 其他ノ炭坑 墩化ノ南、寬街ノ南西ニ當リ大沙河ニ沿ヘル小營子、石頭
 哨、高登廠及西溝江ニ石炭ヲ産ス、厚層ヲナセル砂岩ハ頁岩ヲ挾ミ約東
 方三四十度ニ傾斜シ厚サ二尺ノ一炭層ヲ挾有スト云フ
 甌山洞ハ朝鮮會寧ノ西約十三基米ニアリ、此地ニハ一炭層厚サ七尺ア
 リテ質良好ナリ、鴻山洞ハ會寧ノ南西約十基米、甌山洞ノ南西約四基米
 ニアリ、此地ニアル一炭層ハ厚サ約六尺アリト云フ、以上二箇所ノ炭層
 ハ同一層ニ屬スト云フ、白土洞ハ甌山洞ノ西四基米ニアリテ小丘ヲ隔
 テ、相對ス、炭層ハ甌山洞ニ於ケルモノト全ク相同シ
 海龍、昌圖間ノ掬鹿ニ石炭ヲ發見シ目下採掘ノ準備中ナリト云フ
 以上ノ外嘗テ稼行セラレタル石炭ノ產地ヲ舉クレハ左ノ如シ
 豐安縣ノ南約二十八基米ノ炸子窩

- 伊通州ノ北西約十二基米ニアル茉莉青
- 長春ノ南ニアル杏水泉子
- 長春ノ南々東ニアル鑛洞子
- 五龍屯ノ炭田ノ西ニアル海青溝
- 吉林ノ東ニアル杉松街
- 吉林ノ南々東二百六十五基米ノ那兒轟山
- 墩化ノ南約三十基米ニアル大荒溝

三 黑龍江省

黑龍江省ニハ數多ノ炭田アリテ石炭各所ニ產出スト稱セラル、モ未
 タ據ルヘキ材料ヲ得ス、隨テ之ヲ記述シ若クハ其位置ヲ知ルコト甚タ
 難シ、左ニ石炭產地ニ就キ記述スヘシ
 察漢敖拉炭田ハ滿州里停車場ノ南西二十基米乃至四十基米ノ間ニア
 リ、炭田ハ廣域ヲ占ムト稱セラレ南東部ニ當レル延長約三基米ノ區域
 ハ良好ナリト稱ス、本炭田ハ嘗テ稼行セラレ千九百十年良好ナル一炭

層ヲ發見セリト云フ、層向ハ南北ニシテ厚サハ八尺乃至十尺アリ、石炭ハ有煙炭ニ屬ス

達來諾爾炭田ハ達來諾爾停車場ノ南ニアリテ千九百一一年露國ノ會社採掘ヲ許可セラレタリ、爾來三豎坑ヲ開坑シ今ヤ第四豎坑ヲ掘下シ一日ノ產出額ハ約七八百噸ナリト云ヒ第四豎坑完成スルノ日ハ優ニ千五百噸ヲ產出スト傳フ、含炭層ハ北東ニ走リ南東十度ニ傾斜ス、二炭層アリテ上層ハ厚サ二十五尺、下層ハ四尺五寸ナリト云フ、石炭ハ質脆弱ナル有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	種	類
二、六三	四五、九七	四三、六〇	七、八〇	〇、二五	第三	類	
一、四六	三八、一三	四〇、七一	一〇、七〇	〇、一〇	全		

呼倫貝爾ノ南約二百基米ニアル門頭河附近ニ石炭ヲ產ス、甘河炭田ハ墨爾根ノ南ニアリテ千九百四年ニ開發セラレ爾來二萬六千噸ヲ採掘

セリ、運搬不便ノ爲メ現時嫩河ノ沿岸ニ鐵道敷設ノ企アリ齊々哈爾ノ北西ニアル太平山ノ石炭ハ質良好ニシテ多量ナリト云フ、甘井子臺ノ西約七基米ニアル五道梁子ノ石炭ハ小規模ニ稼行セラル、成吉斯汗ノ南約十三基米ニアル石炭モ亦小規模ニ稼行セラル、齊々哈爾ノ北西約六十五基米ニアル景日生鎮ノ石炭ハ質良好ニ地層殆ント水平ナリ、環々瑯ヨリ約二十基米ニアル松樹溝ノ石炭ハ質良好ナリ餘慶縣ニ於テハ石炭ハ數箇所ニ產出ス、馬鞍山炭田ハ餘慶縣ノ東約百基米ニ屹立セル金生山ノ北麓及南麓ヲ占メ千八百八十八年ニ開發セラレ當初南麓ニ操業シ次テ北麓ニ及ヘリ、運搬不便ナルヲ以テ現時廢棄セラレタリ、石炭ハ有煙炭ニ屬ス

支那ニ於ケル石炭

支那ニ於ケル石炭

目次

緒言	一七一頁
第一章	一七三頁
總說	一七三頁
一 石炭ノ分布	一七三頁
二 産出額	一七八頁
三 石炭ノ輸出入	一八六頁
四 世界ニ於ケル支那ノ位置	一八八頁
五 炭質及用途	一九〇頁
六 炭量	一九二頁
七 石炭産出額ト外國人并ニ交通トノ關係	二〇一頁

八 結論……………二〇四頁

第二章……………二〇六頁

炭田概説……………二〇六頁

一 石炭紀ニ於ケル炭田……………二〇七頁

(一) 直隸省……………二〇七頁

開平炭田……………二〇七頁

石門寨炭田……………二一四頁

西山炭田……………二一五頁

井陘炭田……………二一九頁

臨城炭田……………二二一頁

其他ノ炭田……………二二四頁

(二) 山東省……………二二五頁

濰縣炭田……………二二五頁

博山及淄川炭田……………二二七頁

沂州炭田……………二三〇頁

嶧縣炭田……………二三二頁

其他ノ炭田……………二三三頁

(三) 山西省……………二三六頁

五臺區域……………二三七頁

山西炭田即チ沁嶺山脈ノ東西ニ分布スル炭田……………二三七頁

(四) 河南省……………二四九頁

彰德府ノ石炭……………二五一頁

黃河ノ南方ニ散在セル炭田……………二五二頁

(五) 陝西省……………二五三頁

(六) 甘肅省……………二五四頁

(七) 江蘇省	二五四頁
利國炭田	二五四頁
其他ノ炭田	二五六頁
(八) 安徽省	二五六頁
(九) 浙江省	二五七頁
(一〇) 湖北省	二五九頁
(一一) 福建省	二六八頁
邵武炭田	二六八頁
龍岩炭田	二六九頁
其他ノ炭田	二七四頁
(一二) 江西省	二七四頁
豐城炭田	二七五頁
新喻炭田	二七六頁

宜春炭田	二七八頁
萍鄉炭田	二七八頁
李家渡炭田	二八三頁
汝州ニ於ケル炭田	二八四頁
興安炭田	二八七頁
未調査炭田	二八八頁
(一三) 湖南省	二八九頁
(一四) 四川省	二九一頁
(一五) 貴州省	二九二頁
(一六) 雲南省	二九四頁
二 中生代ニ於ケル石炭	二九四頁
(一七) 直隸省	二九四頁
大安山及王平溝炭田	二九四頁

鷄鳴堡炭田	二九五頁
新邱炭田	二九六頁
五家炭田	二九九頁
十大分炭田	三〇二頁
其他ノ炭田	三〇二頁
(二八) 山西省	三〇四頁
「ツムル」炭田	三〇四頁
大同炭田	三〇五頁
(二九) 浙江省	三〇七頁
(三〇) 江西省	三一〇頁
(三一) 四川省貴州省及雲南省	三一〇頁
(三二) 廣東省及廣西省	三一六頁

支那ニ於ケル石炭

農商務技師 井上禧之助

緒言

支那ニ於テハ往昔ヨリ各種ノ鑛物ノ稼行セラレタルコトハ舊記ニ依リ是ヲ推測スルコトヲ得ヘシ、就中石炭ハ最モ重要ニシテ數千年前ヨリ採掘セラレ家事用トシテ薪炭ニ代用セラレ又ハ工業ニ使用セラレタル形跡アリ、蓋シ支那ノ鑛業ハ其開發甚タ古シト雖モ現今尙未タ舊態ヲ脱セスシテ依然トシテ古法ニ依リ操業シ進步ノ見ルヘキモノ少ナキノミナラス世界各國ノ進步ノ状態ニ比スレハ却テ退歩ノ觀ナキニアラス、其沿革ニ關シテハ是ヲ索ヌヘキ材料ニ乏シク地質并ニ鑛物ノ調査ハ未タ嘗テ施行セラレタルコトナシ、而シテ歐米人ハ經濟上并ニ學術上ノ見地ヨリ深ク之ニ留意シ隨時之カ調査ニ從事シ其結果ハ

各其本國ニ於テ公刊セラレ「リヒトホウフエン」、「ローチャー」、「ウキリス」、「ルクレア」、「ミツシヨン」、「リオネーズ」、「オブルシェフ」氏等ノ諸書ハ能ク人ノ知ル所ナリ、我國ハ支那ト密邇シ地質學上相互ノ關係ヲ比較研究シ鑛物ノ分布、多寡等ヲ調査攻究シテ東洋ニ於ケル鑛物ノ需給ノ如何ヲ查察シ其市場ニ於ケル變動如何ヲ攻究スルコトハ甚タ肝要ニシテ獨リ學術上趣味アル問題タルノミナラス經濟上多大ノ參考タルヘキヤ論ヲ待タサルナリ、隨テ邦人モ亦之カ注意ヲ怠ラス、而モ其知識ハ概ネ淺薄不完全ニシテ調査報告等ハ斷片ニ止マレルモノ多ク且ツ諸種ノ報告書ニ散在シ之ヲ得ルニ難キモノアリ

此ノ如ク調査不完全ナル今日ニ於テ支那ニ於ケル石炭ノ分布并ニ其多寡如何ヲ論スルコトハ甚タ困難ナリト雖モ而モ在來ノ調査材料ニ基ツキ支那ノ石炭ニ關シ記述スルコトハ必スシモ無益ノ業ニアラサルヘク蓋シ將來ノ調査ニ對シ參考タルヲ得ン

茲ニ支那ト稱スルハ滿洲、蒙古、西藏ヲ除ケル支那十八省ヲ謂フ

第一章

一 石炭ノ分布

石炭ハ從來支那ノ鑛產物中最モ重要ナリシノミナラス將來ニ於テモ亦最モ重要ナル鑛物トス、實ニ石炭ハ殆ント支那ノ各省ニ互リテ廣ク分布シ就中直隸、山西、山東、江西等ノ諸省ニ於ケル炭田最モ能ク著ハル、而シテ此等諸省ニ於ケル炭田ハ歐米人ノ經營ニ係リ若クハ資本ヲ歐米ニ仰キ歐米ノ技術家ヲ招聘シ最新ノ方法ニ依リ起業シ其規模稍大ニシテ年産額二十萬噸ヲ超ユルモノアリ、而シテ未タ開發起業セラレサルモノ及小規模ニ支那舊來ノ古法ニ依リ僅ニ操業シ其地方ノ需要ニ應スル炭田ハ枚舉ニ遑アラズ

支那ニ於ケル石炭ハ志留利亞紀ヨリ珠羅紀ニ至ル間ノ地層ニ埋藏セラル、モ其分布廣クシテ最モ重要ナルモノヲ石炭紀ノ石炭トナシ是ニ亞クモノヲ珠羅紀ノ石炭トナス、二疊紀并ニ三疊紀ニ於テモ亦石炭ノ埋藏セラル、アリト雖モ是ヲ前二者ニ比スレハ言フニ足ラス、雲南

省ニ於テハ志留利亞紀ト思惟スヘキ地層ニ埋藏セラル、石炭アリト雖モ特ニ擧クルニ足ラス

支那各省ニ渡リ廣域ヲ占ムル所謂支那層ハ厚層ヲ爲セル石灰岩ニ依リ被覆セラル、支那層ト石灰岩トフ層位上ノ關係ハ未タ明ナラスト雖モ其賦存ノ状態ニ依リ是ヲ見ルニ或ハ整合或ハ不整合ニ支那層ヲ被覆セルモノ、如シ、蓋シ地方ニ依リ異ナルモノナラン、石灰岩ハ甚タ厚クシテ厚サ二三千尺ヨリ時ニハ四千尺以上ニ達シ砂岩、頁岩ヲ介有ス、其時代ハ明ナラサレトモ最下部ハ石炭紀前ニ該當スルモノナルヘキモ大部分ハ上部石炭紀層ニ屬スルモノ、如ク最モ發達シタル時ハ最上部ハ下部中生層ニ屬スルナラン、其分布ハ揚子江以南ノ諸省ニ於テ最モ廣ク揚子江以北ニ於テハ各地ニ散在シ寧ロ面積狭小ナリトス

含炭層ハ一般ニ石灰岩ヲ被覆シ主ニ砂岩、頁岩ヨリ成リ時ニ石灰岩及蠻岩ヲ夾有ス、其上部ハ厚層ヲナシテ廣ク分布セル所謂赭色砂岩ニ移過ス、此兩者ノ間モ亦或ハ整合ナリト云ヒ或ハ不整合ナリト稱ス

含炭層ハ厚層ヲナシ其下部ハ上部石炭紀層ニ屬スルモノナルヘク其最モ發達シタル時ハ最上部ハ下部珠羅紀層ニ屬スルカ如ク其間斷エス成層シタルモノナラン、隨テ含炭層ノ時代ハ層位ニヨリ異レリ、本層ノ最モ良ク發達セル處ハ北京ノ西方西山ニ於テ之ヲ檢スルヲ得ヘク此地ニ於テハ石炭紀ヨリ珠羅紀ニ互レル含炭層アリ、斯ク石炭ハ上部石炭紀ヨリ珠羅紀ニ互レル地層中ニ夾在スルモノナルヘシト雖モ其最モ重要ナルモノハ上部石炭紀ノ夾炭層ニシテ廣大ナル區域ヲ占メ其炭量ハ實ニ無盡藏ナリト稱セラル

夾炭層ハ揚子江以北ノ諸省ニ殊ニ廣域ヲ占メ數多ノ炭層ヲ夾有シ及薄層ノ石灰岩ヲ挿間ス、其厚サハ千尺乃至二千尺ナリト云フ、本層ハ成層後下部ニ於ケル石灰岩ト共ニ褶曲シテ背斜層又ハ向斜層ヲナシ或ハ廣域ヲ占ムルモノアリ、或ハ隨處浸蝕セラレ若クハ古岩層ノ盆地上ニ成層シ比較的狭小ナル區域ヲ領スルモノアリ、炭田中直隸、山西、山東、河南、江西及湖南ノ諸省ニ於ケルモノ最モ著シク就中直隸、山東及江西

ニ於ケル炭田ニハ稍大規模ニ稼行セラレ若クハ稼行セラレントスルモノアリ、而シテ其面積ノ最モ大ナルヲ山西省トシ直隸、山東、江西諸省ノ炭田ハ既ニ世ニ著ハレ湖南、福建、安徽等諸省ノ炭田ハ漸ク世ノ注目スル處トナレリ、珠羅紀ニ屬スル炭田ニシテ現ニ稼行セラレ有望ノ鑛區少ナカラサルモ是ヲ前者ニ比スヘカラス、四川省ノ含炭層ハ其分布最モ廣ク石灰岩ヲ被覆シ北東湖北、陝西ノ二省ニ連リ南方貴州、雲南ノ二省ニ互レリ、其他各省ニ散在セルモノ、内山西省ノ北部大同、北京ノ西方西山等ノ炭田ヲ大ナリトス、二疊紀及三疊紀ニ於ケル石炭ハ石炭紀及珠羅紀ニ於ケル如ク重要ナラス、而シテ是等炭層ノ層位上相互ノ關係等ハ未タ全ク明ナラス

含炭層ノ區域此ノ如ク廣大ナリト雖モ化石ニヨリ其地質年代ノ確定セラレタルモノ少ナク今日ニ於テ含炭層ノ地質年代ヲ確言スルニ難シ、珠羅紀ノ炭層ハ植物化石ヲ埋藏スルモノアリテ其研究ニ依リ炭層ノ地質年代略明ナリト雖モ石炭紀ト思惟セラレ、所謂夾炭層ニハ化

石ノ發見セラレタルコト少ナク且ツ成層厚ク化石ヲ發見セル層位ノ不明ナルコトアリ、隨テ化石ニヨリ地質年代ヲ確定シタル場合ニ於テモ炭層ノ年代ヲ定ムルニ難ク單ニ採集セル化石ノ鑑定ニ依リ夾炭層ノ年代ヲ定ムルコト能ハサルナリ、現ニ上部石炭紀層ト思惟セラル、含炭層ノ二疊紀若クハ下部中生代ニ屬スルモノアルヘシ、即チ江西、湖南二省ノ含炭層ハ石炭紀若クハ二疊紀ノ成層ニ係ルヘシト稱セラル、「フレヒ」氏ハ化石ノ研究ニ依リ山西省ノ大炭田ハ或ハ二疊紀ニ屬スヘク開平炭田并ニ盛京省五湖嘴、煙臺兩炭田ハ二疊紀ニ屬スルコト疑フヘカラス、獨リ山東省ノ炭田ハ下部石炭紀ニ屬シ上部石炭紀ニ屬スル炭田ニハ重要ナルモノナシト稱ス、氏ハ更ニ進ンテ支那ニ於ケル最モ重要ナル炭田ハ二疊紀ニアリテ山西大炭田、直隸省開平炭田、盛京省五湖嘴、煙臺兩炭田、廣西、江西、湖南、湖北、四川、雲南等諸省ノ數多ノ小炭田之ニ屬シ三疊紀ニ屬スルモノニハ湖南省北部、雲南省、湖北省、蒙古等ノ炭田アリ、珠羅紀ニ屬スルモノハ四川省、湖北省ノ炭田ナリト稱シ昨午刊

行ノ故「リヒトホウフエン」氏ノ「支那」ニハ氏ノ説ニ依リ從來南部支那ニ於テ石炭紀ト稱セラレタルモノハ多クハ二疊紀ニ屬ストナセリ
 斯ノ如ク含炭層ノ地質年代ハ今日ニ於テ是ヲ確言スルニ由ナク炭層相互ノ關係ヲ明ニスルコト能ハスト雖モ蓋シ今日マテ夾炭層トシテ思惟セラレタル岩層ハ石炭紀ヨリ二疊紀時ニ或ハ三疊紀ニ互レルモノナラン、而モ茲ニハ據ルヘキ資料ニ乏シキヲ以テ從來記述セラレタルトコロニ從ヒ此含炭層ヲ上部石炭紀ニ屬スルモノト思惟スルノ已ムヲ得サルニ至リ調査資料ノ不完全ニシテ彼是統一スルコト能ハサルシヲ憾ミトス、故ニ速ニ此等炭田ノ精査ヲ遂ケ炭層賦存ノ状態ヲ明ニセンコトハ學術上、經濟上喫緊ノ事項ナリトス

二 產出額

支那ニ於テハ鑛產物ノ統計ニ關シ據ルヘキ材料ナク唯二三ノ鑛山ニ就テ稍信スヘキ報告ヲ蒐集スルヲ得ルノミ、茲ニ諸種ノ材料ヲ參照シテ石炭ノ產出額ヲ推測セントス

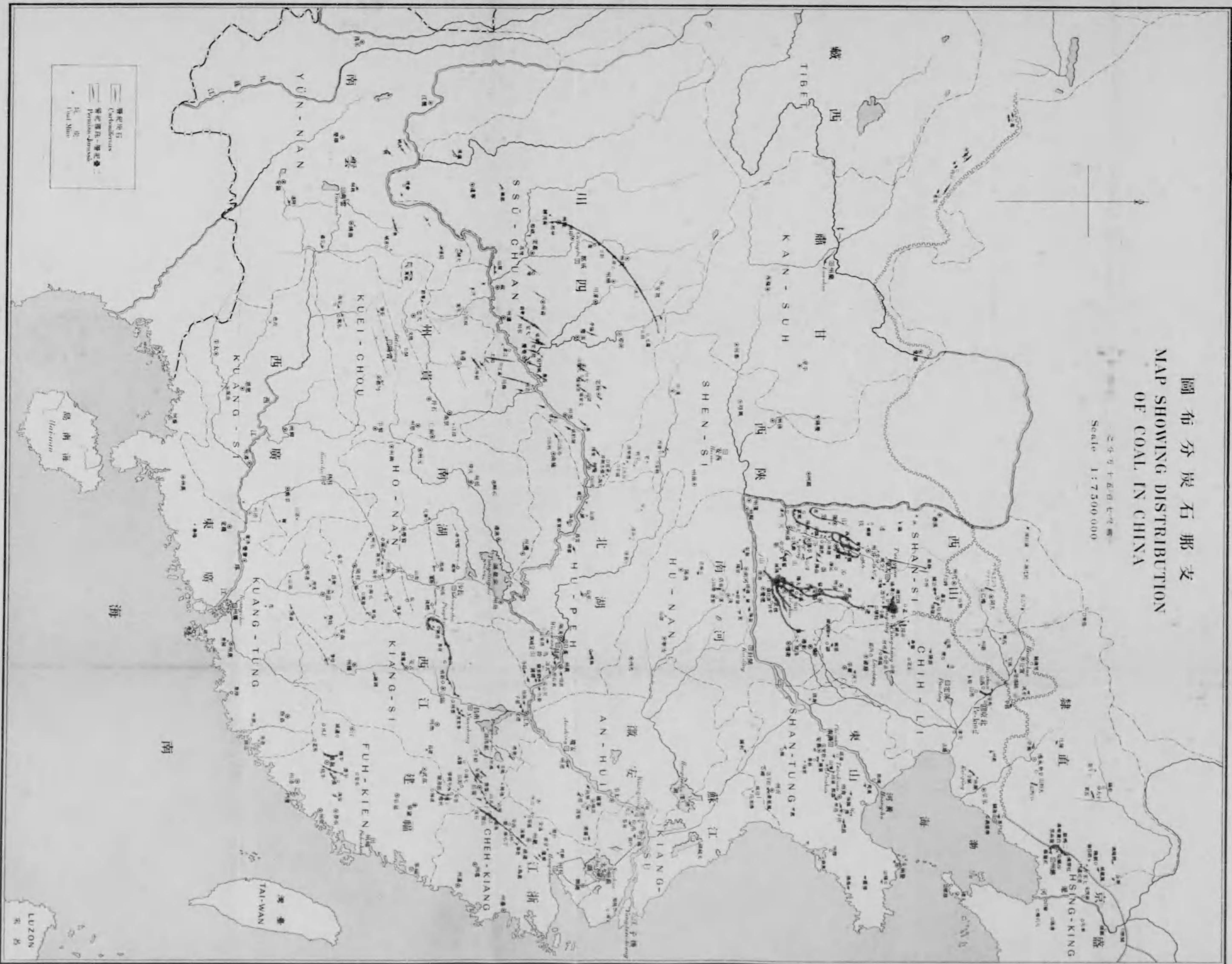
思惟セラレタル岩層ハ石炭紀ヨリ二疊紀時ニ或ハ三疊紀ニ互レルモ
 ノナラン、而モ茲ニハ據ルヘキ資料ニ乏シキヲ以テ從來記述セラレタ
 ルトコロニ從ヒ此合炭層ヲ上部石炭紀ニ屬スルモノト思惟スルノ已
 ムヲ得サルニ至リ調査資料ノ不完全ニシテ彼是統一スルコト能ハサ
 リンヲ憾ミトス、故ニ速ニ此等炭田ノ精査ヲ遂ケ炭層賦存ノ狀態ヲ明
 ニセンコトハ學術上、經濟上喫緊ノ事項ナリトス

一 產出額

支那ニ於テハ鑛產物ノ統計ニ關シ據ルヘキ材料ナク唯二三ノ鑛山ニ
 就テ稍信スヘキ報告ヲ蒐集スルヲ得ルノミ、茲ニ諸種ノ材料ヲ参照シ

圖布分炭石那支
 MAP SHOWING DISTRIBUTION
 OF COAL IN CHINA

支那石炭產出額
 Scale 1:7,500,000



世界鑛業年報ニ據リ最近四年間ニ於ケル産出額ヲ舉クレハ次ノ如シ

年別	産出額	年別	産出額
千九百六年		千九百九年	一二、八四〇、〇〇〇 <small>噸</small>
千九百七年	一〇、四五〇、〇〇〇 <small>噸</small>	千九百十年	一四、五九一、〇〇〇
千九百八年	一一、九七〇、〇〇〇	千九百十一年	

一年一萬噸以上ヲ産出スト思惟スヘキ炭山ト其産出額トヲ舉クレハ次ノ如シ

炭田	産出額	炭田	産出額
直隸	二、七八三、〇〇〇 <small>噸</small>	磁州	一〇〇、〇〇〇 <small>噸</small>
開平	一、四三四、〇〇〇	鷄鳴堡	五〇、〇〇〇
深州	二〇〇、〇〇〇	新邱	一五、〇〇〇
石門寨	八〇、〇〇〇		

以上舉クルトコロニ依リ各省ニ於ケル年産出額ヲ推測セントス
 直隸省ニアリテハ産出額三百萬噸ニ達スヘク其三分ノ一ハ無煙炭
 ニ屬ス、有煙炭ノ産出額ハ開平炭田ノ百餘萬噸ヲ最大トス、無煙炭ヲ産
 出スルモノニアリテハ西山炭田ヲ第一トス、山東省ノ石炭ハ百五十七
 萬三千噸ナリト云フ、而シテ獨逸人ノ經營ニ係レル炭坑ノ産出額約七
 十萬噸ニ達シ支那人ノ小規模ニ採掘スルモノ其量或ハ之ニ劣ラサル
 ヘシト思惟ス、山西省ニアリテハ澤州附近ノ無煙炭ノ産出多大ニシテ
 二百萬噸ノ産出アリト稱セラル、モ少シク過大ニ失スルノ嫌アリ、而
 シテ鐵道ノ延長ト共ニ平定府附近ノ炭田稍發展シ大同附近ノ有煙炭
 亦産出少ナカラサルカ如シ、蓋シ全省ヲ通シテ産出額三百五十萬噸ヲ
 下ラサルヘシ、河南省ニ於テハ北京「シンヂケート」經營炭山ノ産出額五
 十萬噸以上ニ達スヘク全省ヲ通シテ百萬噸以上ナルヘシ、四川省ノ産
 出額ニ就テハ據ルヘキ材料ナケレトモ稼行ノ箇所甚タ多ク五十萬噸

ノ産出額ハ過小ニシテ蓋シ百萬噸ニ達セン
 江西省ニ於テハ萍鄉炭田ヲ第一トシ其産出額六十餘萬噸ニ達ス、豊城
 炭田ノ産出額七十萬噸ハ報告ノ誤ナルヘク其産出額十萬噸ヲ超ユル
 コトナカルヘシト思惟ス、而シテ炭田ハ萍鄉ヨリ豊城ニ互リ更ニ東ニ
 延ヒ其面積廣ク稼行炭坑甚タ多ク其總産出額ハ萍鄉炭田ト比敵スヘ
 ク全省ヲ通シテ百萬噸ヲ下ルコトナカルヘシ、湖南省ニ於ケル産出額
 ハ「ヂャンク」ノ數ニ依リ之ヲ計算スルニ四百萬噸ニ達スト稱セラル、陝
 西省ニ於テハ四川省ノ炭田ノ連續スルモノアリテ秦嶺山脈ノ所々ニ
 稼行セラレ其産出額五十萬噸以上ニ達スヘシト思惟スヘキ理由アリ、
 湖北省ニ於テハ炭山灣炭坑ノミニテ七萬噸ヲ産シ全省ヲ通シテ二十
 萬噸ヲ下ルコトナカルヘク廣東省ニ於テハ韶州ノ産出額五萬噸ナリ
 ト云ヒ總産出額十萬噸以上ナルヘシ、福建省ニハ邵武、龍岩等ノ炭田ア
 リテ産出額十萬噸ヲ下ラサルヘシ、浙江、貴州二省ニ於ケル産出額ハ五
 萬噸、安徽省ハ六萬噸、江蘇省ハ三萬噸内外ナルヘク甘肅、雲南、廣西三省

ニ關シテハ全ク據ルヘキ材料ナシ
之ニ依テ各省ニ於ケル出炭額ヲ推測スルニ次ノ如シ

省名	産出額	世界鑛業年額
直隸	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇八〇,〇〇〇
山東	一,五七三,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇
山西	三,五〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
河南	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
陝西	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
甘肅	—	五〇〇,〇〇〇
江蘇	三〇〇,〇〇〇	—
安徽	六〇〇,〇〇〇	—
浙江	五〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

以上ノ數字ハ固ヨリ確實ナラサレトモ總計千六百萬噸ニ達ス、蓋シ二

省名	産出額	世界鑛業年額
湖北	二〇〇,〇〇〇	—
福建	一〇〇,〇〇〇	—
江西	一,〇〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇
湖南	四,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
四川	一,〇〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
貴州	五〇〇,〇〇〇	—
雲南	—	三〇〇,〇〇〇
廣東	一〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
廣西	—	一〇〇,〇〇〇
其他ノ諸省	—	一〇〇,〇〇〇
合計	一六,一六三,〇〇〇	一,一八四,〇〇〇

三割ノ誤差ハ或ハ之ヲ免カル、コト能ハサレトモ一年ノ總產出額千五百萬噸及二千萬噸ノ間ニアルモノト思惟シテ誤リナカルヘク有煙炭、無煙炭ノ產出額ハ蓋シ或ハ相半ハセシ

支那ニ於ケル石炭ノ產出額ハ確實ニ年々増加シ殊ニ近時交通機關ノ發達、採掘法ノ改良、外國資本ノ輸入等ニヨリ其増進ノ度益速ナルヘシ、今ヤ直隸省井陘、臨城等ノ炭田ハ一箇年百萬噸以上採掘ノ設備ヲ了セリト云ヒ山東省坊子、博山、嶧縣等ノ炭田ノ如キ、江西省萍鄉、豐城等ノ炭田ノ如キ亦一箇年百萬噸以上ノ出炭ヲ期シ其他山西大炭田、西山炭田等モ亦將ニ開發ノ機運ニ向ヘリト稱ス、若シ果シテ然リトセハ數年ナラスシテ支那ニ於ケル出炭額ハ當ニ大ニ増進スルニ至ルヘシ

三 石炭ノ輸出入

支那ハ其面積及人口ニ比シテ石炭ノ消費額寡少ナリ、而シテ其鑛業ハ幼稚ナルヲ以テ現時稍多量ノ石炭ヲ輸入ス、輸出ハ未タ言フニ足ラス、最近五年間ニ於ケル輸出入ヲ表示スレハ次ノ如シ

年	別	輸	出	輸	入
明治三十九年			六、三五一 <small>噸</small>		一、四〇三、四七二 <small>噸</small>
全	四十年		二七、八九四		一、五〇四、五四九
全	四十一年		一九五、九五〇		一、五一六、六二九
全	四十二年		三一八、一二四		一、四四三、八九六
全	四十三年		三二六、六一〇		一、五四〇、八九九

輸入ノ主ナルモノハ日本ニシテ即チ次ノ如シ

年	別	輸	入	年	別	輸	入
明治四十一年			一、二六二、八五八 <small>噸</small>	明治四十四年			一、一八四、二六八 <small>噸</small>
全	四十二年		一、二七九、九四一	明治四十五年			一、二六五、七三九
全	四十三年		一、一七二、一〇一				

此ノ如ク日本ノ輸入ハ總額ノ九割ニ垂ントス、而シテ其量ハ殆ント一定シ寧ロ減少スルノ傾向ヲ示セリ、之ニ反シ輸出ハ其量甚タ僅少ニシテ未タ注意スルニ足ラスト雖モ其確實ニ稍激甚ナル増加ヲ致サントスルノ趨勢ニアリテ其產出額ノ増加ト共ニ決シテ忘却スヘカラサルナリ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ支那ノ石炭消費額ハ二千萬噸内外ト思惟シテ大過ナルヘク而モ其交通機關ノ發達、工業ノ發展ハ現時ニ於ケル石炭消費額ヲ以テ満足スヘキモノニアラス、而シテ其多大ナル炭量ヲ埋藏スルコトハ其需要ヲ充タシテ餘アリト言フヘシ

四 世界ニ於ケル支那ノ位置

支那ハ多大ノ炭量ヲ埋藏スルニ拘ラス其產出額ハ千五百萬噸ヲ超過スルニ止マリ其消費額ハ僅ニ二千萬噸ニ過キスシテ之ヲ世界ノ總產出額十億八千萬噸ニ比スルニ僅ニ十分ノ一ニ過キス、世界鑛業年鑑ニ據リ一千萬噸以上ノ產出アル邦國ヲ舉クレハ次ノ如シ

國名	一千九百七年	一千九百八年	一千九百九年	一千九百十年	一千九百十一年
北米合衆國	四三五、四八三、九三八	三六九、八九五、八六一	四〇二、九八一、六八八	四四五、八一六、〇四〇	四五五、七二〇、五五〇
英吉利	二六七、八二八、二七六	二六一、五〇六、三七九	二六三、七七四、八二二	二六四、五〇五、二〇七	二六八、〇三九、〇〇〇
獨逸	二〇五、五四二、六八八	二二五、〇七一、三四五	二二七、三三二、二七〇	二二一、九八六、三七六	二三四、二五九、〇六一
澳太利及洪牙利	四〇、一一二、五三〇	四〇、七六〇、八七〇	三九、八四二、七四九	三八、〇〇六、八四〇	四〇、一六六、七四三
佛蘭西	三六、七五三、六二七	三七、六二二、五五六	三七、九七一、八五八	三八、五七〇、四七三	?
露西亞	二二、二〇七、五〇〇	二二、九四三、七九四	二四、〇八三、〇〇〇	二四、五七二、四〇三	?
白耳義	二三、七〇五、一九〇	二三、六七八、一五〇	二三、五六二、二二五	二三、二七二、三三〇	二三、二二〇、六六一
日本(臺灣ヲ含ム)	一三、九三九、二二九	一四、九七九、六八七	一五、二三二、五二五	一五、九二二、九六五	一七八、八七六、三二一
支那	一〇、四五〇、〇〇〇	一一、九七〇、〇〇〇	一二、八四〇、〇〇〇	一四、五九二、〇〇〇	?
印度	一一、二四七、三三九	一二、八六五、四〇八	一一、八七〇、〇七七	一二、〇九二、四二六	?

第一位ニアル北米合衆國ハ四億餘萬噸ヲ產出シ之ニ亞ケル英國、獨逸

ハ二億餘萬噸ヲ產出ス、其他ノ諸國ハ遙ニ之ヨリ下リ、澳洪國ノ約四千萬噸、第四位ニアリ、印度、日本、支那ハ殆ント伯仲ノ間ニアリテ、第八位ヨリ第十位ニアリ、日本ハ數年間年々二百五十萬噸以上ノ石炭ヲ輸出シ、國內ニ於ケル消費額ハ千五百萬噸ニ下リ、支那ノ消費額ハ確實ニ千五百萬噸以上ヲ超ユ、若シ夫レ將來ノ發展ヲ期待スルニ於テハ、支那ノ需要額ハ現今ノ數倍ニ達スヘク、東洋ニ於ケル石炭市場ノ競争ハ蓋シ太平洋沿岸ニ賦存スル石炭ノ分布ト相俟テ趣味アル研究資料タルヘシ

五 炭質及用途

石炭ノ分類ハ甚タ困難ナリ、朝鮮ノ石炭ニ於テ第十二回萬國地質學會議ニ於テ規定シタル分類法ヲ記述シタリ、此分類法ニ從ヒ、支那ノ石炭ヲ分類スルコトハ至難ノ業タリ、在來有煙炭ト稱セラレタル開平炭ハ第二類ニシテ正ニ半有煙炭ニ屬シ、萍鄉炭亦第二類ニ屬スルモノ多ク、此等ノ類例ハ支那ノ石炭ニ甚タ多シ、又同一區域ニアルモノニシテ分析ノ結果ノ著シク相違セルモノアリ、或ハ分析ノ不統一又ハ不完

全ノ結果ニ歸スヘキモノ或ハ標本採取ノ不完全ナルニ基因スルモノアルヘシト雖モ亦分類ノ甚タ困難ナルヲ知ルニ足ラン、而シテ本編ニハ統一上第十二回萬國地質學會議ニ於テ規定シタル分類法ニ據レルモ種類ハ便宜上在來稱スルトコロニ從ヘルヲ以テ甚タ統一セサルモノアルヘキハ實ニ已ムヲ得サルナリ

石炭ハ其種類甚タ多キモノ之ヲ無煙炭及半無煙炭並ニ有煙炭ニ大別スルヲ得ヘシ、半有煙炭、亞有煙炭ハ之ヲ區別セス、無煙炭及半無煙炭ハ支那内地ニ於テ主ニ薪炭ニ代用セラレ又ハ石灰燒成ニ使用セラル、其之ヲ採掘スル炭山ハ全國ニ散在シ其數甚タ多キモ未タ大規模ニ稼行セラル、モノナク皆支那在來ノ古法ニ據リ多クハ農民ノ兼業ニ係リ小規模ニ操業ス、故ヲ以テ其產出額ヲ知ルコト能ハサルモ其量蓋シ少ナカラスシテ產出額ハ有煙炭ト相半ハスヘシト云フ

無煙炭及半無煙炭ヲ產出スル炭田ハ直隸、山西、河南等ノ諸省即チ北支那ニ多ク、湖南、湖北、福建、廣東等ノ諸省ニ於ケルモノハ前者ノ如ク著シ

カラス、現時最モ大ナル炭田ト思惟セラル、モノハ山西省ニアリ、河南

省及北京ノ西方ニアルモノ之ニ亞ク
有煙炭ハ質良好ニシテ黑色ヲ呈シ主ニ汽船、汽車及工業ニ使用セラレ
多クハ粘結シ良好ナル骸炭製造ニ適ス、現時支那ニ於テ大規模ニ新式
ノ採掘法ニ據リ稼行セラル、モノハ即チ有煙炭ニ屬シ其分布廣シト
ス、現ニ稼行セラル、モノニアリテハ直隸省開平炭田ヲ第一トシ江西
省萍鄉炭田之ニ亞ク、直隸省井陘炭田、臨城炭田等亦著シク四川省ノ炭
田ハ其區域廣シトス、山東省ニ於テハ無煙炭及有煙炭相半ハスト云フ

六 炭 量

炭量ノ概算ニ關シテハ朝鮮ノ石炭ニ於テ之ヲ記述シタリ、支那ノ炭量
ヲ概算スルニ當リテモ統一上亦第十二回萬國地質學會議ニ於テ規定
シタル方法ニ據ランコトニ務メタリ、然レトモ調査甚タ不完全ナルヲ
以テ第一種炭量ハ殆ント之ヲ計算スルヲ得ス、且ツ第二ニ屬スル地下
四千尺乃至六千尺ニアル炭層ハ之ヲ計算セス、實ニ支那ニ於ケル炭量

ノ概算ハ調査未タ完全ナラサル今日ニ於テ之ヲ試ムルコト甚タ困難
ナリ、諸書ニ散在セル炭量概算ノ數量ヲ見ルニ同一炭田ニ於テ其量ニ
大ナル差違ヲ見ルノミナラス其計算ノ基礎甚タ明ナラサルモノ多シ、
茲ニ炭田ノ面積ト炭層ノ厚サトニ依リ各省ニ於テ推測セラレタル炭
量ヲ概觀スルニ或ハ過大ニ概算セラレタルモノアリ、或ハ寡少ナリト
思惟スヘキモノアルモ之カ取捨選擇ハ實ニ容易ナラス、以下記述セン
トスル炭量ノ概算ハ固ヨリ適確ナルニアラスト雖モ彼是相殺シテ或
ハ支那ニ於ケル炭量ノ大要ヲ知ルノ一助トナルヲ得ヘク以テ支那ニ
於ケル炭量ノ如何ニ多大ナルカヲ知ルニ足ラン、若シ夫レ正確ナル炭
量ノ如キハ他日調査進捗セルノ後ニ於テ更ニ之ヲ明ニスルヲ得ン
直隸省ニ於テ最モ有名ナルヲ開平炭田トス、其埋藏スル炭量ハ地下
深サ二千尺マテヲ概算スルニ炭量二億二千五百萬噸、尙深キニ至レハ
優ニ四億萬噸ニ達スヘシ、「ウヰリス」氏ハ計算ノ基礎ヲ擧ケスシテ本炭
田ノ炭量ヲ二十億萬噸ト概算セリ、其他石門寨、西山、井陘、臨城、新丘、五家、

十大分等ノ炭田亦一億乃至十億萬噸ノ炭量ヲ有スト稱セラル、「ウヰリス」氏ハ開平、西山ノ兩炭田ヲ除ケル直隸省炭田ノ總炭量ヲ三十億萬噸ト計上セリ

山東省 ニ於テ最モ重要ナル炭田ヲ博山、淄川トシ其面積二百五十方哩アリト云フ、其他濰縣、嶧縣等ノ炭田アリ、「ウヰリス」氏ハ山東省ノ總炭量ヲ百億萬噸ト計上シタリ、而シテ稍信スヘキ材料ニ依リ計算シタルニ其炭量ハ濰縣、博山、嶧縣ヲ通シ六億五千萬噸ヲ得タリ

山西省 「リヒトホウフン」氏ハ山西省南部ノ大炭田ノ面積ヲ三萬四千八百七十平方基米、炭層ノ總厚ヲ四十尺トシ此區域ニ埋藏セラル、炭量ヲ六千三百億萬噸、山西省全部ノ炭田ニアル炭量ヲ一兆二千五百億萬噸ト計上シタリ、「ドレーキ」氏ハ唯南部ノ大炭田ノ炭量ヲ計算セリ、而シテ其面積ハ「リヒトホウフン」氏ニ從ヒ炭層ノ總厚ヲ平均二十二尺トシ炭量三千五百億萬噸ヲ計上シ、「リヒトホウフン」氏ノ計算ヲ過大ナリト稱セリ、「ウヰリス」氏ハ計算ノ方法ヲ示サスシテ大同附近ノ炭田ニアル

炭量ヲ五百億萬噸ト計上シ稍信スヘキ材料ニヨリ計算スルニ其炭量ハ遙ニ少ナク十二億萬噸ナリ、然レトモ是等ノ數字ハ或ハ過大ニ失スルアルヘシト雖モ其炭量ノ巨大ナルコトハ之ヲ想像スルニ難カラス河南省 ノ炭田ハ北部ニ於ケルモノ大ニシテ其他處々ニ散在ス、懷慶ニ於ケル炭田ノ炭量概算ハ二億萬噸内外ナリ

江西省 ニ於テ最モ著名ナルハ萍鄉炭田ニシテ其炭量四億萬噸ナリト稱セラレ豐城炭田ノ炭量亦四億萬噸ト推測セラル、其他ノ炭田ハ其量明ナラス、蓋シ豐城、萍鄉炭田間ニハ同種ノ石炭アルヘク更ニ東方ニ數多ノ有望ナル炭田アリ、其埋藏スル炭量ハ蓋シ尠少ナラスシテ豐城、萍鄉兩炭田ノ炭量ヨリ小ナルコトナカルヘシ
湖南省及四川省 ニ於テハ炭田ノ區域廣ク共ニ百億萬噸以上ノ石炭ヲ埋藏スト稱セラル

其他ノ諸省 ニ於テ概算セル數量ハ皆大ナラスシテ浙江、福建二省ニ於ケル炭量概算僅ニ一億萬噸内外ナリ、其他ノ諸省ニ於ケル炭量ハ之

其 他	大 同	山 西	山 西	其 他	澤 縣	博 山	瀘 縣	山 東	其 他	十 大 分	五 家
—	一五二〇	一五	一五二〇	—	一三一五	八一〇	一五二〇	八一五	—	三	三三
—	二〇〇	三五〇〇 五二〇〇〇	八七二〇〇	—	七〇	一四	二〇	一〇四	—	二四四	八四
—	—	第一類 第二類 第三類	—	—	—	第二類二	第三類	—	—	全	全
—	一,二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三三三,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇 三三三,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇 三三三,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	五五四,二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	—	五〇〇,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	六五〇,〇〇〇,〇〇〇	—	一,一四〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
—	—	—	巨 大	—	—	—	—	大	—	—	巨 大

「ウキリス」氏ハ中部揚子江、秦嶺區域及四川省ヲ除キ南支那ニ於ケル炭量ヲ計算セリ、蓋シ炭田ノ區域ハ北支那ニ比シテ狭ク其炭量古生層ニ屬スルモノハ百億萬噸、中生層ニ屬スルモノハ二百億萬噸ヲ下ラスト稱セリ、炭量ヲ概測ニ基ツキ計算セルニ其結果次ノ如シ

第二種炭量

新 邱	臨 城	井 陘	石 門 寨	開 平	直 隸	炭 田
三 八	七 八	六 二〇	一 六二〇	六〇一八五	七 八五尺	厚 サ
八	三五	二五	三〇	二二	平方基米 四三八	面 積
全	第三類	第二類二	第一類二	第二類二 第三類	—	種 類
—	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三,〇八〇,〇〇〇,〇〇〇噸	炭 量
全	全	全	中	大	巨 大	第 三 種 炭 量

楊家山	黃石港	炭山灣	興國	湖北	其他	興安	新喻	萍鄉	豐城	江西	其他
二五—三五	二—二五	六—六	一五—二	二—六	—	四	六—七	一〇—一三	四—六	四—三	—
二	二七	三五	四	二五七	—	一〇	八	六〇	二〇〇	二七八	—
第二類一	第一類二	第一類二	第二類二	—	—	—	—	第二類二	—	—	—
二,五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,四三五,〇〇〇,〇〇〇	—
小	全	全	小	全	大	—	—	大	—	全	大

龍岩	福建	其地	常山	西安	浙江	利國	江蘇	其他	湯陰	懷慶	河南
八	八	—	三	四	三—四	八—一〇	八—一〇	—	二〇—二五	一五—二五	一五—二五
二〇—三〇	三〇	—	三五—四〇	五五	九五	五〇	五〇	—	二五	三〇	五五
第一類一	—	—	第一類二	—	—	第三類	—	—	—	—	—
二七,〇〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇,〇〇〇	—	四〇,〇〇〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	—	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇,〇〇〇
中	全	大	全	中	全	全	全	全	全	全	大

計	其他ノ諸省	四 川	湖 南	其 他	香 港
		六	一五		四
九七、七五、七		六、四五〇	三、〇〇〇		一四、五 第二類二
		第三類			二四、二〇〇、〇〇〇
五九、二一五、〇〇〇、〇〇〇		一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇		大 中
	大			大	

炭量ノ概算ハ斯ノ如ク漠然トシテ多ク據ルヘカラス、隨テ之ヲ以テ直ニ支那ニ於ケル炭田ノ眞價ヲ臆測スルハ甚タ早計タルヲ免レスト雖モ亦以テ支那ニ於ケル炭量ノ豊富ナル一斑ヲ窺フヲ得ヘシ、蓋シ前記ノ炭量中或ハ過大ニ之ヲ計算シ或ハ寡少ニ概算セラレタルモノアラシ、是レ蓋シ該計算ノ基礎ノ確實ナラサルニ基因スルモノニシテ調査不完全ナル今日ニ於テハ實ニ已ムヲ得サルナリ、故ニ今後精査ヲ遂クルニ於テハ一方ニ炭量ノ減少スルコトアルト共ニ他方ニ増加スルモ

ノアルヘシ、而シテ前述セル炭田ノ外ニ數多ノ炭田アルノミナラス既述ノモノニシテ未タ概算スルコト能ハサルモノアリ、隨テ前記炭量ハ彼是相殺シテ大ナル誤リナキノミナラス今後或ハ増大スルニ至ルヤ未タ知ルヘカラサルナリ、若シ夫レ交通ノ便開ケ日新ノ技術應用セラレ支那ニ於ケル各炭田開發セラル、ニ至ラハ東洋ニ於ケル石炭市場ハ大ナル變動ヲ惹起スルニ至ラン、實ニ支那ノ石炭ハ優ニ數百年間世界ニ於ケル石炭ノ需要ニ應スルニ足ルヘキナリ

七 石炭產出額ト外國人

并ニ交通トノ關係

外國人ノ關係セル支那炭坑若クハ炭田ノ主要ナルモノヲ擧クレハ次ノ如シ

直隸省

開平炭坑 英人ノ管理ニ係リ英、白兩國ノ資本ニ成レル北京「シンヂケート」之ヲ採掘ス

井陘炭坑 獨逸ト共同稼行
臨城炭坑 白耳義ト共同稼行

山西省

太谷、大原、陽曲、平遙、靈石及孝義ノ各縣ニ於ケル炭田ハ白耳義ト共同稼行

山東省

坊子炭坑
淄川炭坑
博山炭坑

獨逸ノ稼行ニ係レリ、此外膠濟鐵道及其支線沿道三十清里以内ニ於ケル石炭ヲ採掘スルノ權利アリ

沂州附近 獨逸ニ其採掘ヲ許可セリ

河南省

懷慶府及黃河以北炭田 英、伊兩國ニ其採掘ヲ許可セリ

四川省

全省英、佛ニ其採掘ヲ許可セリ

江西省

萍鄉炭坑 獨逸ヨリ資金ヲ得テ獨逸人之ヲ經營セルモ近時獨逸人ヲ解雇セリト云フ

福建省

建寧、汀州、邵武ノ三府ニ於ケル炭田 佛國ニ其採掘權ヲ許可セリ

此外安徽省、貴州省、雲南省、浙江省等ニ於テ英、佛、白等ニ採掘ヲ許可シタルモノアリ、而シテ現ニ盛ニ稼行セラル、直隸省開平、山東省坊子、博山、江西省萍鄉ノ炭坑等ハ皆英、獨人ノ經營ニ係リ井陘、臨城、嶧縣、豐城等ノ炭坑ハ外國人ニヨリ規模漸ク大ナラントス、現ニ五百萬噸内外ノ石炭ハ外人ノ經營ニ據リ採掘セラル、モノニシテ同國ハ今ヤ外人ノ經營ニ依リ外人ノ資本ニ依リ漸ク開發ノ機運ニ向ハントス
炭坑ノ經營ニ直接ニ影響スルモノハ運搬ノ便否ナリ、蓋シ支那ニハ河

流ノ運搬ニ資スルモノ甚タ多ク支那人ハ此便ニ依リテ物資ヲ各地ニ搬出シ其地方ノ需要ニ應ス、近時鐵道ノ敷設ニ依リテ運搬ニ一生面ヲ開カントス、即チ山西省ノ石炭ノ如キハ近ク鐵道ニ依リ搬出セラレヘク山東鐵道亦運炭ノ用ニ供セラレ京漢鐵道ノ沿線ニハ直隸省定州、臨城、磁州、河南省彰德府豐樂鎮、衛輝府衛輝等ノ炭田アリテ漸ク大規模ノ操業トナリ運搬トナリ更ニ轉シテ輸出トナリ支那内地ノ石炭ハ東洋ノ石炭タラントス、近時津浦鐵道ノ開通ニヨリ山東、江蘇、安徽三省ノ地モ漸ク交通ノ便ヲ得テ沿線ノ炭田亦當ニ開發セラルヘキナリ、其他粵漢、南潯鐵道成ルノ日ハ江西、湖南兩省ニ於ケル石炭ノ開發セラル、ノ時タルヘク外人ノ施設ト鐵道ノ延長トハ直接ニ石炭ノ產出額ニ大ナル影響ヲ及ホスヘキモノニシテ一日モ其注意ヲ怠ルヘカラサルナリ

八 結 論

支那ニ於ケル炭田ハ其分布ノ區域廣大ニシテ殆ント各省ニ互リ其炭量ハ巨大ニシテ幾千百億萬噸ニ上リ世界ノ總產出額ヲ供給スルモ優

ニ數百年ヲ支持スルニ足ラン、固ヨリ調査不完全ナル今日ニ於テ前掲炭田ノ分布、炭量ノ計算ヲ以テ正確ナリト稱スルニアラスト雖モ依テ以テ同國ニ於ケル石炭分布ノ廣大ニシテ炭量ノ豊富ナル一斑ヲ窺フヲ得ン、將來工業及交通ノ發達ハ同國ニ於ケル炭田ノ調査ヲ促進スルニ至ルヘク其結果炭田ハ新ニ發見セラレ其區域ハ更ニ擴大セラル、モノアルヘク之ニ反シ或ハ炭田ノ區域、炭量ノ計算過大ニ失セルモノヲ發見スルニ至ルヘシト雖モ支那ニ於ケル石炭ノ多大ナルハ之ヲ爭フノ餘地ナカルヘク將來寧ロ之カ増加ヲ想像シ得ヘキ理由アリ

現今盛大ニ稼行セラル、開平、萍鄉、山東等ノ炭田ハ英、獨人ノ經營若クハ資本ニ據リ井陘、臨城等ノ炭田亦英、白人ノ手ニ依リテ其規模漸ク大ナラントス、現ニ稼行セル鑛山中將來其規模ヲ擴大ナラシメントスルモノアリ、或ハ新ニ開發セラレントスルモノアリテ支那ニ於ケル產出額ハ近キ將來ニ於テ大ニ増加スルトコロアラントス、而シテ鐵道ハ年ト共ニ延長シ交通ノ便宜漸ク開ケントシ工業ハ當ニ勃興セントシ石

炭ノ需要ハ益多カラントス、而モ石炭ノ輸入ハ其額殆ント停止ノ状態ニアルニ反シ輸出ハ漸次増加スルニ至ラントス、今後東洋ニ於ケル石炭市場ハ支那炭田ノ分布ノ状態ヲ知悉シタル後ニ非サレハ之ヲ調査研究スルコト困難ナルヘク支那ニ於ケル調査ノ急務ナルヲ想フ

第一章

炭田概説

支那ニ於ケル石炭ハ石炭紀層ニ埋藏セラル、モノ其分布最モ廣大ニシテ最モ重要ナリトス、石炭紀後ニ在リテハ珠羅紀ニ賦存スルモノヲ重要ナリトス、然レトモ前述セルカ如ク各炭田ノ地質年代ハ二三ヲ除ケハ化石ニ據リ確定セラレタルモノナク隨テ將來地層相互ノ關係、化石ノ調査ニ依リテ各炭田ノ地質年代ノ確定セラル、ニ至ラハ其誤ナルヲ發見シ或ハ新期ニ屬スルモノ或ハ後期ニ屬スルモノアルヘシ、而モ今ヤ據ルヘキ資料ニ乏シキヲ以テ茲ニハ現時一般ニ思惟セラル、地質年代ニヨリ各炭田ヲ分類シ及記述セリ

一 石炭紀ニ於ケル炭田

本炭田中ニハ便宜上南清ニ於ケル志留利亞紀及二疊三疊紀ニ屬スルモノヲ編入シタリ

(一) 直隸省

直隸省ニ於テ最モ著名ナルモノヲ開平炭田トシ省ノ北部ニアリ、北京ノ西ニ西山炭田、省ノ南西ニ井陘及臨城ノ炭田アリ、共ニ一年石炭十萬噸以上ヲ產出ス

開平炭田

開平炭田ハ天津、山海關鐵道ニ沿ヒ略其中間ニアリ、著名ナル鑛業地ヲ塘山、林西トス、塘山停車場ハ天津ヨリ鐵路約百二十九基米、塘沽ヨリ約百基米、秦皇島ヨリ約百十八基米ニアリ、林西停車場ハ塘沽ヨリ百二十七基米、秦皇島ヨリ九十基米ニアリ、兩停車場ノ距離ハ約二十七基米ナリトス、而シテ炭坑ハ鐵道ニヨリ連絡シ出炭額ノ約三分一ハ鐵路秦皇島ニ運搬シ是ヨリ水路各地ニ輸送ス

第一圖
開平炭田
縮尺約三十三萬分之一



開平炭坑 開坑ノ時期ハ
明ナラサルモ明朝以來稼
行セラレタルカ如ク千八
百七十五年再開ノ議ヲ決
シ英人監督ノ下ニ洋式ニ
據リ採掘ノ法ヲ講シ唐山
ニ於テ堅坑ヲ掘鑿セルハ
千八百七十九年ナリトス、
實ニ支那ニ於テ新式採掘
法ヲ採用セルハ之ヲ以テ
嚆矢トス、千八百八十二年
林西ニ堅坑ヲ掘下シ成績
共ニ大ニ見ルヘキ者アリ
タリ、千九百年本山ハ主ニ

英吉利人ノ經營ニ係ル支那工鑛業會社即チ開平鑛山會社ノ所有ニ歸
シ開平炭坑トシテ其名東洋ニ於テ著シ、塘山堅坑ハ支那ニ於テ最モ大
ナル者ニシテ當初ニ起業セラレ現ニ盛大ニ稼行セラレ林西堅坑之ニ
亞ク、千八百八十一年ヨリ千九百十一年ニ至ル出炭額ハ概數八百五十
萬噸ト稱セラル、近年ニ於ケル產出額ハ次ノ如シ

年 別	產 額	年 別	產 額
千九百七年	一、一七、五七〇噸	千九百十年	一、一五九、〇〇〇噸
千九百八年	一、二二六、〇六九	千九百十一年	一、四三三、五四六
千九百九年	一、三五九、五〇二		

深州炭坑 ハ深州鑛業會社ノ稼行スルトコロニシテ千九百七年ノ開
坑ニ係リ其鑛區ハ開平炭坑ト相連レリ、馬家溝ハ本會社事務所ノ所在
地ニシテ開平ノ北約四基米ニアリ、營子溝、狼尾溝、陳家峯及桃園ノ四ノ
堅坑ハ馬家溝ノ東ニアリテ鐵道ヲ距ル六基米ノ中ニアリ、潮口莊ハ桃

園ノ東約十六基米ニアリ、趙口莊ハ古冶驛ノ北ニ位ス、一日ノ出炭額ハ約百五十噸ナリシモ一昨年ニ至リ一日八百噸ニ達シ主ニ馬家溝及潮口莊ニ於テ稼行セラレ馬家溝ノ東ニアル四坑ハ目下設備中ナリ以上兩會社ハ久シク其鑛區ニ關シ爭議シ決スルトコロナカリシモ昨年開平會社ハ遂ニ灤州會社ト聯合シ開灤礦務總局ヲ組織スルニ至リ茲ニ其爭議ヲ解決スルヲ得タリ

本炭田ノ基盤ハ厚層ヲ成セル石灰岩ニシテ北部ニ丘陵地ヲナス、其南西部之ヲ被覆シテ波狀臺地ヲナセルモノハ即チ夾炭層ニシテ延長東北東ニ約四十八基米、幅三基米乃至十基米アリ、夾炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ヨリ成リ數多ノ炭層ヲ夾有シ東北東ニ走レル一大盆地ヲナス、夾炭層ノ厚サハ明ナラサレトモ一千尺ヲ下ルコトナカルヘシ、炭層ノ露頭ハ北翼ニ於テ約四十八基米ヲ追跡スルヲ得ヘク其兩端ハ沖積層下ニ沈ミ南翼ノ大部分ハ黄土ニ依リ被覆セラル、西山ニ於テハ炭層ノ兩端ハ斷層ニ依リ切斷セラレ其延長十六基米ナリ、地層ノ傾斜ハ西方ニ比

較的急ニシテ東方ニ次第ニ緩ナリ、概言スレハ塘山ニ於テハ五十度ニ達スルモ林西ニ於テハ二十度乃至二十五度ノ角度ヲナシ馬家溝、陳家嶺ニ於テハ四十度、趙口莊ニ於テハ三十度ナリトス、而シテ西方及塘山ノ附近ニ於テハ地層ハ甚シク變動ヲ受ケ褶曲シ且ツ斷層多シ、塘山堅坑ニ於テハ落差數十尺ニ及ヘル一大斷層アリ、炭層ノ數ハ甚タ多ク厚サ一尺以上ノモノヲ數フレハ十二層ヲ超エ二尺五寸以上ノモノ六層乃至八層アリ、厚サハ隨處異ニシテ一定セサレトモ試錐ノ結果等ニ據ルニ稼行スヘキ炭層ノ總厚八十五尺ニ達スルモ炭田ノ東端并ニ林西堅坑ノ南部ニハ減シテ六十尺トナレリ、試錐ノ結果次ノ如シ、蓋シ本表中ニハ厚サ二尺以下ノ炭層ヲ省ケリ

坂北店	塘山	第三層	七、六尺	
		第四層	一尺	
		第五層	五、六尺	
		第六層	四、〇尺	
		第八層	九、六尺	
		第九層	一、五、〇尺	
		第九層	一尺	
		第十層	一、五、〇尺	
		第十一層	二、六尺	
		第十二層	四、五、〇尺	
		第十三層	二、六尺	
		總計	九七、〇尺	
		檢セス	六、〇	一

ニ屬ス、塊粉ノ割合ハ通常塊炭百分中三十五乃至四十五ナルモ時ニ六十ニ達スルコトアリ、「ドレーキ」氏記述ノ分析及其後施行セラレタル分析ノ結果次ノ如シ

第一種炭	第二種炭	第三種炭	五尺層 (骸炭製造 ニ適ス)	林 四	九尺層 (馬家溝)
水	0.64	0.68	0.62	1.13	1.13
揮發物	22.17	21.03	29.99	26.14	22.49
固定炭素	71.55	67.78	65.10	66.11	66.69
灰	5.54	10.53	15.13	10.52	9.69
硫	0.98	0.96	0.68	0.79	0.52
黃比	1.285	1.310	1.310	1.430	1.355
重	—	—	—	—	—
發熱	—	—	—	—	—
量	—	—	—	—	—
種	第二類二	全	全	第三類	全
類	—	—	—	—	—

石門寨炭田ハ山海關ノ北約三十五基米ニアリテ臨榆縣内ニ位ス、其區

域ハ黒山宮嶺、石門寨、義院口ノ諸村ニ跨リ延長約三十五基米、幅約四基米アリ、地質ハ開平炭田ト同シ、炭層三四層アリ、上層ハ厚サ四五尺、下層ハ十五尺アリト云フ、現時ハ小規模ニ支那人ニ依リ稼行セラレ炭坑ノ數三百ヲ超ユト稱セラレ年産額ハ八萬噸ナリト云フ、開平炭田ニ比シ區域小ナルモ交通不便ナラサレハ更ニ開發ノ時アルヘシ、石炭ヲ埋藏スヘシト思惟セラル、面積ハ深サ四千尺迄採掘シ得ルモノトシテ三十平方基米ト推定セラレ炭量二億萬噸ト概算セラレタリ
石炭ハ良質ノ無煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃比	重	發熱	量	種	類
0.78	78.9	80.59	10.74	0.79	—	—	—	—	全	—
3.45	88.5	85.42	2.28	1.17	1.394	—	5.610	100.98	第一類二	—

西山炭田

北京ノ南西ニ當リ房山縣ノ西方及北西ニ聳ユル大房山及馬鞍山ノ石

灰岩ヲ圍繞セル丘陵ハ即チ西山炭田ニシテ砂岩、頁岩ヨリ成リ上部ニ
 疊岩ヲ夾有ス、本炭田ハ北京ノ西ニ位スルヲ以テ西山ノ稱アリ、鐵道ニ
 依リ北京ニ連接ス、煤嶺、長口峪、大夫庄ノ諸村ハ房山縣ノ北西、西北西及
 北方ニアリテ「リヒトホウフエン」氏ノ所謂瑠璃河炭田ヲナシ北京ノ西十
 一基米乃至十三基米ノ地ヨリ西方ニ連リ延長六十三基米、幅十九基米
 乃至二十四基米ノ區域ハ「ドレーキ」氏ノ王平炭田トシテ記載セルモノ
 ニシテ共ニ西山炭田ノ一部タリ、本炭田ニ稼行ノ炭坑ハ其數甚タ多ク
 宛平縣ニ於テ約百十、房山縣ニ於テ三百十ヲ數フルヲ得ヘク此外良鄉
 縣ニモ亦炭坑アリ、本炭田ハ數百年前ニ開坑セラレタルモ其產額ニ關
 シテハ據ルヘキ統計ナク千九百八年支那工鑛業會社ニ依リ採掘セラ
 レタル石炭ハ約十六萬七千噸ニシテ其他ノ數多ノ炭坑ニ依リ採掘セ
 ラレタルモノハ此數ヨリ少ナカラサルヘシ、其陀里、園口店、門頭溝、齊堂
 地方ニ於テ採掘セラレタル石炭ハ皆北京ニ輸送セラレ其總額十七萬
 八千九百五十噸ナリト云ヒ北京ノ南西二十五基米ノ東里ニハ一日無

煙炭千噸ヲ採掘シ北京ノ西ニアル門地溝、南西ニアル良鄉縣炭坑、瑠河
 溝炭坑ハ有煙炭ノ日產千噸ナリト稱スルモ少シク過大ナルヘク本炭
 田ニ於ケル年產額ハ三十萬噸以上或ハ五十萬噸ニ達スヘシト思惟ス
 ルヲ得ヘシ
 煤嶺ニ於テハ夾炭層ハ一ノ向斜層ヲナシ六炭層ヲ埋藏ス、其最モ厚キ
 モノハ厚サ十尺ナリト云フ、長口峪ニ於テハ炭層ノ厚サハ一尺ヨリ三
 十尺ノ間ニアリト云フ、夾炭層ハ更ニ東方ニ延ヒテ廣大ナル面積ヲ占
 メ一ノ向斜層ヲナス、傾斜ハ地層ノ變動ヲ受ケタル結果比較的急ナリ
 炭質ハ所ニ依リ甚タ異ニシテ之ヲ判定スルニ苦シムモノアルモ皆無
 煙炭ニ屬シ概ネ粘結セスシテ短焰ヲ發シテ燃燒ス、只良鄉縣ニ於ケル
 モノ有煙炭ナリト稱セラル、モ其當否ヲ知ラス、分析ノ結果ハ次ノ如
 シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	種	類
〇.八六	五.九二	七.七八	一五.三八	〇.二五	一.三三	二	一	第一類	

第 二 圖
井 陘 炭 田
縮 尺 約 七 十 萬 分 一



井 陘 炭 田

井陘縣ハ直隸省ヨリ山西省ニ至ル街道上ニアリ、正定府ヨリ大原府ニ達スル鐵道此地ヲ通過ス、炭田ノ延長約二十四基米、幅約十二基米ニシテ洪洞炭坑ハ井陘縣ノ北東十六基米、桓口炭坑ハ其南々西約二基米ニアリ、此外井陘縣ヲ中心トシ約四十基米ノ地域ニ散在シテ數多ノ小炭坑アリ、北ニアル北陘、南陘、白彪、順道地、西方及南西ニアリ、洪岸、板橋炭坑等著シ、夾炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ傾斜緩ナ

一八七	二六七	一一三	二三五	一三九	二〇一	二八四	五三四	三三九	〇八三	二四一	三八六
三三三	四〇八	二四九	三二五	五二六	二一四	五四二	三四三	二八二	六八八	四一九	三一
五七三	八二六	七八〇	八三四	七八九	七九一	八五三	六八九	六九三	六六二	七七九	七五三
三六五	一〇五	一八三	一〇九	一五二	一五九	六三四	二二二	二六四	二五七	一五四	一七〇
〇、二	〇、三	〇、二	〇、六	〇、三	〇、三	〇、一	〇、四	〇、二	〇、二	〇、二	〇、二
全	全	全	全	全	全	全	全	第一類	第一類	全	全

洪湖炭坑ハ嘗テ支那人ニ依リ小規模ニ稼行セラレタリ、三四年前ヨリ歐式採掘法ニヨリ採掘セラル、ニ至リ現時一日ノ出炭高五百噸乃至六百噸ト稱シ千九百八年ニハ十一萬五千噸、千九百九年ニハ十九萬三千五百噸ヲ產出セリト云フ、稼行ニ堪フル炭層ハ厚サ七尺、四尺及十二尺ノ三層ニシテ上部ノ二層現ニ稼行セラル

桓口炭坑ハ四年前新式採掘法ニヨリ開坑セラレ一日ノ產出額百噸乃至百五十噸、年額五萬噸ヲ超エサルヘシ、稼行ニ堪フヘキ炭層ハ四尺乃至八尺ノ厚サヲ有スル一層ニシテ北西三十度ニ傾斜ス

其他ノ炭坑ハ小規模ニ稼行セラレ一日ノ產出額ハ十噸乃至二十噸、一年約五千噸ナルヘシ、炭層ハ厚サ四尺乃至八尺ナリトス

本炭田ハ其區域廣ク採掘亦容易ニシテ現時ヨリ其產出額ヲ増加スルコト難キニアラサルヘシ、前述ノ如ク炭坑ハ井陘縣ノ四周ニ散在シ其石炭ヲ埋藏スヘシト思惟スヘキ面積ハ約二十五平方基米ト推定セラ

レ炭量一億二千萬噸ト概算セラレタリ

石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス、採掘ニ際シ大塊ヲ得ルコト困難ニシテ普通塊粉相半ハス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃比	重	發熱		種類
							カロリ	英國熱單位	
〇.五九	二七.九七	六三.七六	七.六八	〇.六九	一.三二	—	—	—	第二類二
〇.六五	二八.二〇	六三.八一	七.三四	〇.七二	一.三〇	七.五九〇	一三.六六二	—	全
〇.九二	一五.八二	六七.七七	一五.五〇	〇.四四	一.四九六	六.三三〇	一一.三九四	—	全

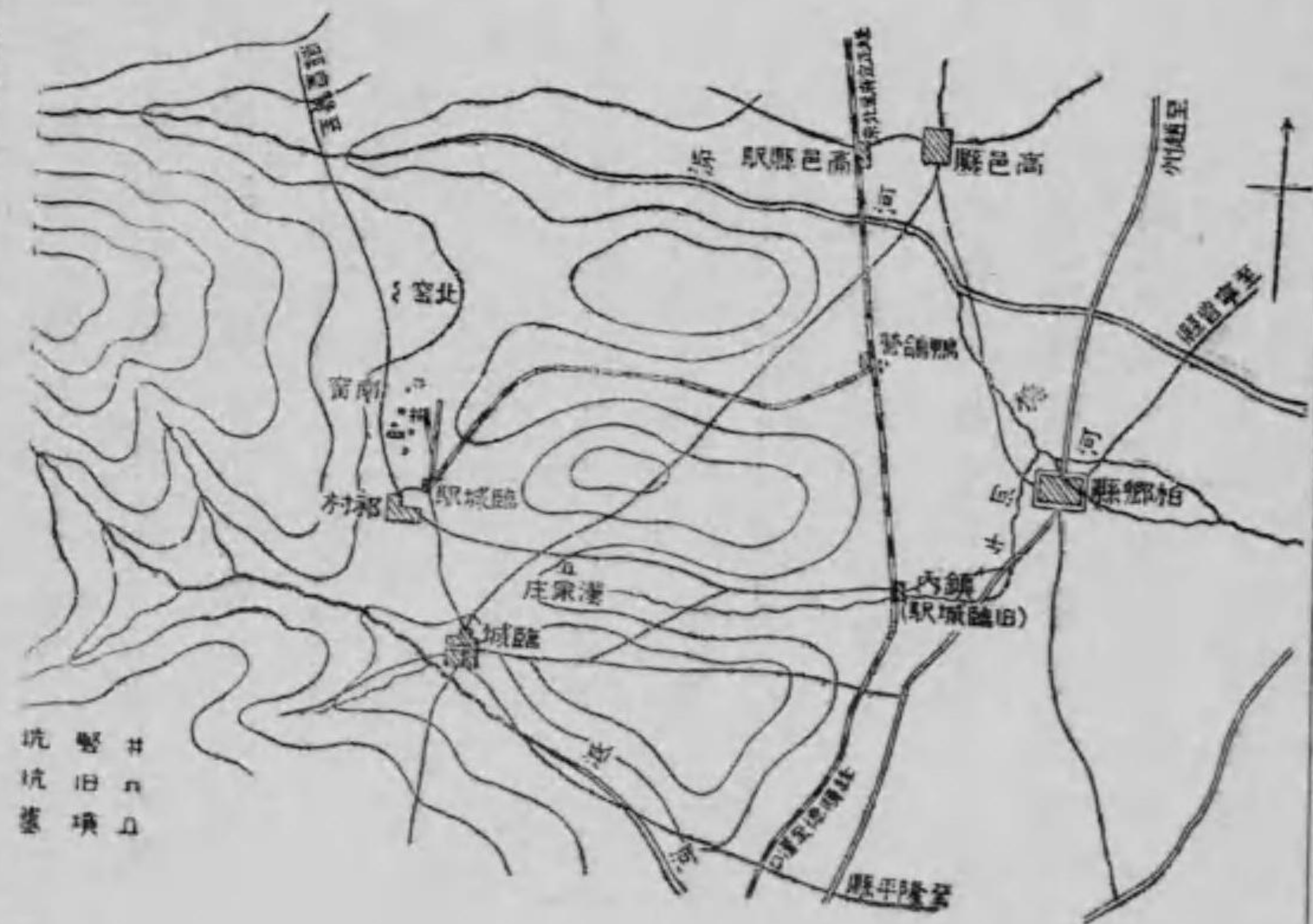
臨城炭田

省ノ南部臨城縣ノ北約十基米ニ祁村アリ、臨城炭田ハ其北ニ位シ數多ノ炭坑茲ニ稼行ス、京漢鐵道ノ支線本炭田ニ延長シ運搬容易ナリ、本炭田ハ約二十年前ニ開坑セラレ其總產出額ハ七十萬噸ナリト云フ、即チ開坑後五六年間ハ支那ノ古法ニ依リ採掘セラレ此間二萬二千五百噸

第三圖

臨城炭田

縮尺五萬分之一



ヲ產出シ爾後九年間ハ支那式及歐式ニ依リ採掘セラレ其量十二萬噸ナリ、最後ノ七年間ニハ五十萬噸ヲ採掘シ内五年間ハ專ラ歐式ニ依リ採掘シタリ、本炭田中當初事業ヲ開始シタルハ北密ニシテ南密ハ近年開坑セラレタリ、

現時一日ノ出炭額六百噸、一年二十萬噸ヲ產スト稱セラレ現ニ二ノ豎坑掘進中ニシテ之ニ依リ一日二千噸ヲ採掘スヘキ豫定ナリト云ヒ白國ノ一會社支那政府ト聯合シ操業ス

本炭田ハ其延長南北二十五基米ヲ下ラサルヘク高邑、臨城及内邱ノ三縣ニ跨リ砂岩、頁岩ヨリ成ル、稼行ニ堪フヘキ二炭層ハ其厚サ各四尺以上アリ、層向ハ南北ニシテ南方二十度乃至三十度ニ傾斜ス、炭層賦存ノ區域ハ精査ノ後ニアラサレハ明ナラサレトモ概略三十五平方基米アリト云ヒ埋藏炭量概算一億萬噸ト推定セラレタリ

石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結ス、塊粉ノ量ハ相半ハスト雖モ下層ハ塊炭多キカ如シ、石炭ハ長焰ヲ發シテ燃燒シ稍良好ナル骸炭製造ニ適ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
一七・一	三三・四九	五四・八〇	一〇・〇〇	一一・七	一・六五	六九〇八	二二・三四	第三類				

其他ノ炭田

寧山炭田 ハ唐縣ノ北西約三十基米、保定府ノ南西百二十九基米ニア
リテ片麻岩系岩層上ニ一小盆地ヲナス、夾炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ石
灰岩上ニ坐シ黄土ニ依リ被覆セラル、層向ハ東北東ニシテ中部ニ一ノ
向斜層ヲナス、數多ノ炭層ハ下部ノ頁岩中ニ挿間セラレ石炭ハ有煙炭
ナリ

磁州炭田 彭城鎮ハ磁州ノ西約四十基米、京漢鐵道ノ西約二十基米ニ
アリ、此地ニハ所々ニ小規模ニ石炭ヲ採掘シ一年ノ產出額十萬噸ナリ
ト云フ、地質ハ臨城炭田ト同一ナルヘシ
小牛群炭田 ハ赤峰縣ノ西南西約六十基米ニアリテ約五十年前ニ開
坑セラレタリ、現時一年ノ產額六百噸ナリト云フ、夾炭層ハ砂岩、頁岩及
石灰岩ヨリ成リ玄武岩ニ依リ貫通セラル、現時稼行ノ一條ノ炭層ハ厚
サ四尺、品位劣等ナルモ、嘗テ採掘セラレタルモノハ質良好ナリシト云

フ、石炭ハ無煙炭ニ屬ス

未調査炭坑 曲陽縣ニ於テハ石炭ハ所々ニ小規模ニ稼行セラレ白石
溝及野北村等名アリ、南票炭田ハ錦州ノ西約五十基米、長城外ニアリテ
盛京省ニ跨レリ、本炭田ハ滿洲炭田ト共ニ之ヲ記述スヘシ、此他薊州、易
州、完州、靈壽縣、三河縣、邯鄲縣ニ石炭ヲ產スト稱ス、其地質年代ハ之ヲ審
ニセサレトモ蓋シ古生層ニ屬スルカ如シ

(二) 山東省

山東省ニ於テハ夾炭層ハ處々ニ散在シ殊ニ濟南府以東青州府間ニ於
テハ古層ノ上ニ向斜盆地ヲナス、沂州及濰縣ノ炭田ハ省ノ南部ニアリ、
全省一年ノ產炭額ハ百萬噸ヲ超エ千九百十年ニハ百五十七萬三千噸
ヲ產セリト云フ

濰縣炭田

濰縣炭田ハ濰縣ノ南約十四基米ニアリテ延長約八基米、幅約七基米ア
リ、地ハ波狀ノ臺地ニシテ砂岩、頁岩ヨリ成リ三炭層ヲ挾ミ基盤ヲナセ

ル石灰岩ヲ被覆シ東西ニ走リ十二度乃至十六度ノ角度ヲ以テ北方ニ傾斜ス、含炭層ノ上層ハ珠羅紀ノ植物化石ヲ埋藏スルモ下部ハ上部石炭紀ニ屬スト云フ、三炭層中上層ハ珠羅紀ニ屬シ品位劣等ニシテ探掘ニ堪ヘス、第二層ハ厚サ十三尺乃至十七尺、下層ハ厚サ四尺乃至六尺共ニ石炭紀ニ屬スト稱セララル

坊子炭坑 ハ山東鑛業會社ノ操業ニ係リ同名ノ停車場ノ西約一基米ニ位シ目下省内ニ於テ最モ盛大ニ稼行セララル、モノナリ、三炭層中上層ハ品位劣等ニシテ稼行ニ堪ヘス、本層ヨリ産スル化石ニ依リ其珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、本炭層ノ下部三四百尺ニ厚サ十二尺ノ石炭紀ニ屬スル石炭アリ、第三層ハ第二層ノ下約百六十尺ニアリテ厚サ平均十三尺ナリ、安兒坑炭坑ハ近時ノ開坑ニ係リ坊子停車場ノ北ニアリ、坊子炭坑近年ノ産額ハ次ノ如シ

年	別	産	額	年	別	産	額
千九百七年			一四五、〇〇〇 _兩	千九百九年			二七二、〇〇〇 _兩

千九百八年

二二三、〇〇〇

千九百十年

二二九、〇〇〇

支那人稼行ノ小炭坑甚タ多ク其出炭量ハ一年約十萬噸ニ達スヘシ炭田ノ面積ハ未タ精査セラレサレトモ約五十六平方基米ニ達スヘク石炭ノ埋藏區域ハ二十平方基米ト推定セラレタリ、之ニ依リ炭量ヲ概算スルニ一億萬噸ヲ得タリ

石炭ハ有煙炭ニ屬シ一般ニ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	發	熱	量	種	類
二八〇	三〇、七〇	五一、八〇	一四、七〇	〇、九七	一、四〇九	一	六、一六〇	一、〇八八	第三類			
二〇一	三〇、六〇	五一、三三	一六、一六	一、三三	一	一	六、五五〇	一一、七九〇	全			

博山及淄川炭田

博山炭田ハ博山ノ西約四基米ニアリ、山東鐵道ノ支線此地ニ延長ス、夾炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ西北西三四度ニ傾斜シ黄土ニ依リ被覆セラ

ル、稼行ニ堪フヘキ炭層六アリ、厚サ一尺八寸ヨリ七尺ノ間ニアリ、博山ノ南東ニアル黒山ニ於テハ六尺乃至八尺ノ一層現ニ稼行セラル、博山炭坑ハ淄川停車場ヨリ約六基米ノ地ニアリ、本炭田ハ其面積十四平方基米アリテ五千萬噸ノ石炭ヲ埋藏スト稱セラル、石炭ハ有煙炭ニ屬シ概ネ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	カロリ	熱	英國熱單位	種	類
〇、九五	一六、二五	七七、七三	五、〇八	〇、九六	一、三三六	七、三三〇	一、三三六	七、三三〇	一、三三六	第二類	二	
一、二七	一九、六一	六七、八二	一、一三〇	三、三三六	一、二九二	七、一五〇	一、二九二	七、一五〇	一、二八七〇	全		

淄川ハ博山ノ北東ニアリ、炭層ハ博山ニ於ケルモノ、連續セルモノナルヘキモ處々ニ斷層ニ依リ切斷セラレテ其關係明ナラス、炭層數多アルモ一層ノ厚サ二尺ナルモノ稼行セラル、數多ノ炭坑淄川縣ノ東ニ散在シ殊ニ疊陽坡ニ於テハ其數最モ多ク約百ニ達スト云フ、炭質ハ濰縣ニ於ケルモノヨリ良好ニシテ粘結性ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

獨逸人稼行ノ炭山ノ外支那人ニ依リ小規模ニ稼行セラル、モノ其數甚タ多ク殊ニ岔山並ニ博山、淄川間ノ鐵道沿線ヲ然リトシ其數二百ニ達スヘシト云フ、稼行炭層ノ厚サハ一尺乃至三尺ニシテ石炭ハ無煙炭ニ屬ス

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	カロリ	熱	英國熱單位	種	類
〇、四八	一七、八八	七三、〇一	八、六三	一、一六	一、二四六	七、二七〇	一、二四六	七、二七〇	一、三〇八六	第二類	二	
〇、四〇	一六、六六	七〇、八〇	一、二一四	〇、八〇	一、三九二	六、九三〇	一、三九二	六、九三〇	一、二四七二	全		
〇、四四	一五、六一	六九、七七	一、四一八	〇、五四	一、二六六	六、八二〇	一、二六六	六、八二〇	一、二二七六	全		
〇、五五	一四、三五	七八、六九	六、四一	〇、五二	一、二四九	七、一五〇	一、二四九	七、一五〇	一、二八七〇	全		
〇、六一	一七、二二	六九、一三	一、三一四	一、七六	一、二七八	六、九三〇	一、二七八	六、九三〇	一、二四七四	全		
〇、五〇	一六、三二	七二、二八	一、〇、九〇	〇、九六	一、二八六	七、〇二〇	一、二八六	七、〇二〇	一、二六三六	全		
一、〇三	一三、七一	六二、六四	二、三、六二	〇、四二	一、五〇四	五、六一〇	一、五〇四	五、六一〇	一、〇〇九六	全		

獨逸人ノ經營ニ係ル炭坑ヨリ採掘スル石炭ノ產出額ハ次ノ如シ

年	別	產	額	年	別	產	額
千九百八年			七二、〇〇〇噸	千九百十年			二五二、〇〇〇噸
千九百九年			一六〇、〇〇〇				

現時一日ノ採炭量ハ七百噸ニ達スト云ヒ目下一日三千噸ノ出炭ヲナシ得ヘキ設備ヲ完成セントス、現時最モ盛大ナルヲ巖山炭坑ナリトス、支那人ノ採掘セル石炭ノ產出額ハ明ナラサレトモ千九百八年ニハ十四萬五千噸ナリシト稱ス、蓋シ本炭田ニ於ケル一年ノ總產出額ハ六十六萬噸ヲ下ルコトナカルヘシ、而シテ支那人ノ稼行セル小炭坑ハ本炭田ノ獨逸人ニ許可セラル、以前ニ許可セラレタルモノニシテ爾來新ニ支那人ニ採掘ヲ許可セス

沂州炭田

紅子店ハ沂州府ノ南方約十基米ニアリテ南及西ニ互リ波狀ノ臺地ヲ

成ス、基盤ハ石灰岩ニシテ夾炭層ニ依リ被覆セララル、夾炭層ハ主ニ頁岩ヨリ成リ薄層ノ砂岩ヲ挾ミ東方十五度乃至三十度ニ傾斜ス、數多ノ炭層ハ涑河ニ沿ヒ處々ニ露出ス、厚サハ三尺乃至五尺ニシテ有煙炭ニ屬ス

沂州府ノ西約二十基米ノ地ニ三炭層アリ、南方及西方ニ之ヲ追跡スルヲ得ヘシ、鳳凰潭ハ沂州ノ南西約二十四基米ニアリ、其附近ニハ數多ノ廢坑アリテ其數三十ヲ超ユ、近時再開セラレタルモノアリテ一年一萬八千噸ノ石炭ヲ產出スト云フ、此處ニハ三炭層アリ、上層ハ質良好ナルモ其他ハ品位劣等ナリ、沂州ノ南ニアル嶽城縣傳家庄炭坑ハ一日約三十五噸ヲ產出ス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃比	重	發熱	量	種	類
上鳳凰層	〇.六八	二〇.六二	七六.六八	二.〇二	一.六八	一.二七九	七四二五	一三三六五	第二類	二
下全層	〇.六七	一六.八一	五一.五八	三〇.九六	八.三六	一.五八九	四九五〇	八九一〇	全	

嶧縣炭田

嶧縣炭田ハ省ノ南部嶧縣ノ北約十三基米半ノ地ニアリ、津浦鐵道臨城驛ハ東方約三十基米ニアリテ兩地ノ間ニ支線ノ敷設アリ、南方大運河ニ至ル約四十基米ノ間亦鐵道アリテ運搬便ナリ、本炭田ハ約二十年前ニ開坑セラレ其當時ハ運搬甚タ不便ニシテ產出額少量ナリシモ鐵道ノ開通ト共ニ一日ノ產出額三四百噸ニ達シ堅坑ノ開掘ニヨリテ一日二千噸ニ増加セントス

本炭田ハ東西ノ延長約二十五基米、幅六基米ニ互レル廣大ナル面積ヲ占ムルカ如シ、現ニ稼行セル棗莊ハ炭田ノ西部ニアリテ嶧縣ノ北約十三基米ニアリ、基盤ハ片麻岩ニシテ炭田ノ北部山腹ニ露ハル、石灰岩ハ北部ニ該片麻岩ヲ被覆シ南方ニハ緩斜セル丘陵ヲナス、夾炭層ハ此間ニ東西ニ狭長ナル帶狀ヲナシ主ニ砂岩ヨリ成リ頁岩ヲ夾メリ、層向ハ概ネ東西ニシテ北方ニ十度乃至三十度ニ傾斜スルヲ普通トス、炭層三アリト云ヒ上層ハ稼行セス、現ニ稼行セルモノハ第二層ニシテ上層ノ

下約六百尺ニアリ、厚サハ棗莊ニ於テ試錐其他ニヨリ測定セラレタル八十尺ニシテ二十尺乃至三十尺ニ膨大ス、下層ハ未タ明ナラス、其區域ハ東西約四千五百尺、南北三千尺ニシテ炭量概算七百餘萬噸ナリト云ヒ全地域ニ互リテ炭層賦存ストセハ炭量概算三億萬噸若クハ六億萬噸ニ達スト稱セラル、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果ハ次ノ如シ

揮發物	固定炭素	硫黃	灰	炭素	水素	酸素	窒素	種類
二七五二	六四七八	〇.六五	七.二四	七九.〇六	四.二八	七.一〇	一.四四	第二類二
二三〇四	六九五〇	〇.八四	七.〇八	八〇.三九	四.二〇	六.三五	一.四四	全

其他ノ炭田

章邱炭田 甫村ハ章邱ノ南約三十五基米ニアリ、一炭層甫村ノ南西約四基米ニ賦存シ厚サ概ネ八尺アリ、甫村ノ北西ニアルモノハ厚サ約四尺ナリトス、含炭層ハ基盤ヲナセル石灰岩上ニ坐シ單斜層ヲ成シ北二

十度ニ傾斜ス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ概ネ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

二三四

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黄	比重	發熱	英國熱單位	種類
〇.四三	一八.一三	六六.八六	一四.五八	〇.五〇	一.三七〇	六八二〇	一一,七六六	第二類二

泰安炭田 泰安ノ南ニ炭層ニアリト稱スルモ茲ニ記述スヘキ材料ナシ

新泰炭田 ハ耿家庄ヨリ四基米ニアリテ新泰縣ノ北西ニ位ス、夾炭層ハ砂岩、頁岩ニシテ北々東八度ニ傾斜シ數多ノ炭層ヲ插間ス、炭層ノ厚サ約二尺ナルモノ現ニ稼行セラル、「シエンク」氏ハ此地ニ産スル植物化石ヲ鑑定シテ珠羅紀ニ屬セルモノトナセルモ化石ヲ埋藏セル層位明ナラスシテ茲ニハ濰縣ニ於ケルカ如ク本層ヲ上部石炭紀層ト假定セリ、岩庄ハ新泰ノ北ニアリテ數多ノ炭層約三十度ノ角度ヲ以テ傾斜ス、未タ探究セラレサルヲ以テ其眞價ヲ知ルニ由ナシ、新泰縣ノ北西約二十基米ニ崖頭アリ、其西方約十二基米ニアル大協炭坑ハ現時小規模ニ

操業セラレ大協炭坑ノ南六基米ニアル良郷炭坑、其南約三基米ニアル徑村炭坑亦小規模ニ稼行セラル、石炭ハ其地方ノ薪炭代用ニ供セラル、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス、大協炭坑石炭ノ分析結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黄	比重	發熱	英國熱單位	種類
一.七四	三七.三九	五八.八九	一.九八	二.二三	一.二七七	七五九〇	一三,六六二	第三類

蒙陰炭田 汶南炭坑ハ蒙陰ノ北ニアリテ小規模ニ稼行セラル、石炭ハ有煙炭ニ屬シ其地方ノ薪炭代用ニ供用セラル、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黄	比重	發熱	英國熱單位	種類
一.八九	三一.六五	六一.一三	五.三三	一.八〇	一.三二六	七二〇五	一一,九六九	第三類

未調査炭坑 登州ニ於テハ石炭ハ處々ニ産出ス、即チ州ノ南ニアル文峯頂、福山縣ノ南ニアル馬山寨、棲霞縣及開陽縣等皆石炭ヲ産スト云ヒ殊ニ棲霞縣ニ於ケルモノ炭量豊富ナリト稱セラル、膠州ノ南約八十基

二三五

米ノ地ニ厚サ約三尺ノ二炭層アリト云フ、昌邑縣ニ於ケル孟埠、昌樂縣ニ於ケル景山窪及大崑崙戴家地ハ濰縣ノ東及西ニアリテ濰縣ニ於ケルト同一ノ地層中ニ石炭ヲ埋藏スト云ヒ昌樂縣ニ於ケルモノハ質良好ニシテ數百年間稼行セラレタリト云フ、博興縣ノ南ニアル南晤炭田ハ獨逸人ノ鑛區ト相接シ小規模ニ稼行セラル、博興炭田ノ南ニアル高苑縣、臨淄縣及益都縣ニモ亦石炭ヲ産ス、萊蕪炭田ハ廣域ヲ占ムト稱セラル、モ據ルヘキ材料ナシ、莒州ノ南方土山莊ニハ沂州ニ於ケルト同一ノ層位ナルヘシト思惟スヘキ炭層アリ、滕縣ノ北西約十五基米ニアル蘆山店ニハ石炭ヲ埋藏スル面積十九平方基米アリト云ヒ炭質良好ナリト稱ス、此外壽張縣梁山寨ニ石炭ヲ産スト云フ

(三) 山西省

山西省ハ支那ニ於テ最モ石炭ノ豐富ナル地域ナリト稱セラレ炭田ハ殆ント省ノ中央ヲ南北ニ走レル沁嶺ノ東西ニ廣域ヲ占ム、此他五臺縣ノ近傍ニ小區域ノ炭田アリ、然レトモ交通不便ナルヲ以テ未タ全ク開

發セラル、ニ至ラスシテ石炭ハ多ク小規模ニ稼行セラレ薪炭ニ代用セラル、ニ過キス、山脈ノ東ニアル石炭ハ主ニ無煙炭ニ屬スルカ如ク西ニアルモノハ有煙炭ニ屬スルモノ多シ

五臺區域

五臺縣ノ近傍ニハ小炭田散在ス、天和炭田ハ五臺縣ノ東、嶽頭炭田ハ南東ニアリテ共ニ臺山川ニ接ス、夾炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ支那層ニ屬スル石灰岩上ニ坐シ一ノ向斜層ヲナス、數多ノ炭層アリ、天和炭田ニ於テハ炭層ノ厚サ一尺以上ノモノ九層アリテ其總厚三十一尺ヲ下ラスト稱シ中部ニ於ケル八尺層、下部ニ於ケル三尺層現ニ稼行セラル、崖頭炭田ニ於ケル石炭賦存ノ状態ハ天和炭田ニ同シ、五臺縣ノ南西ニアル東冶鎮ニ稼行セラル、石炭ハ良質ニシテ代州府ニ輸送セラル、石炭ハ有煙炭ナリ

山西炭田即チ沁嶺山脈ノ東西ニ分布スル炭田

沁嶺山脈ノ西方ニ頒布セル炭田 太原平野ハ略省ノ中央ニ位シ之ヲ
 圍繞シテ波狀ノ石炭紀臺地アリ、此臺地ハ汾河ニ沿ヒ南方平陽府ニ連
 リ更ニ曲沃縣、絳州及翼城縣ニ互リ北方ニハ遙ニ崞州ニ連レリ
 此臺地ハ黄土ニ依リ被覆セラル、處多キヲ以テ石炭紀層殊ニ石炭ノ
 露頭ハ汾河及東西ヨリ汾河ニ注入スル支流ニ於テ之ヲ見ルヲ得ルノ
 ミ、石炭ハ現時主ニ露頭附近ニ所々ニ稼行セラル
 汾河ト黄河トノ分水嶺ヲナセル連枝山脈ハ沁嶺山脈ト共ニ主ニ寒武
 利亞紀ヨリ石炭紀ニ互ル石灰岩層ヨリ成リ含炭層ニヨリ被覆セラル、
 含炭層ハ砂岩及頁岩ノ互層ニシテ向斜層ヲナシ數多ノ炭層ヲ埋藏ス、
 太原平野ノ東西ニアル丘陵ニ賦存スル炭層ノ厚サハ三尺乃至五尺ヲ
 普通トス、平陽縣ノ西ニハ地層ハ緩斜ス、此處ニハ厚サ十二尺ノ炭層ノ
 ミ稼行セラレ其北ニ接シテ厚サ二尺及三尺ノ二層ヲ採掘ス、榆次縣ニ
 ハ十二箇處ニ石炭ノ露頭アリ、火燒嘴ニ於ケルモノハ厚サ約十八尺ヲ
 有ス、孝義縣ニハ石炭ハ十四箇所ニ露出シ莊王溝、亂崖溝ニ於ケルモノ

厚サ亦十八尺アリ、鄉寧縣北露坡ノ炭層ハ厚サ十三尺ナリト云ヒ其他
 窟南上、柏迪窪ニ於ケルモノ著シ、隰州ニ産出スル石炭ハ良好ナルモ交
 通不便ナルヲ以テ發達スルニ至ラス、石炭ハ多ク南方河津ノ平野ニ搬
 出セラレ同縣ニ於ケル一日ノ産出額約三十噸ナリト稱ス、本炭田ノ區
 域ハ甚タ廣大ニシテ北ハ崞州ヨリ太原、平陽ヲ通シ南ハ絳州及曲陽ニ
 達ス、東西ノ幅ハ四十基米乃至四十八基米アリ
 沁嶺山脈ノ東方ニ頒布セル炭田 沁嶺山脈ノ東方ニ頒布セル炭田ハ
 其區域廣大ニシテ面積西方ノ炭田ニ讓ラサルヘシ、炭田中最モ著シキ
 ヲ澤州附近トス、澤州ノ南西ニアル南村ニハ石炭ノ總厚約三十尺ニ達
 シ深サ三百尺ノ鑿坑ニヨリ稼行セラル、大鐵ハ大井關ノ北ニアリテ南
 村ノ南約六基米ニ位ス、此處ニハ厚サ四尺乃至四十尺ノ無煙炭層石炭
 紀ノ波浪狀ヲナセル地層中ニ夾在ス、澤州ノ北東ニアル孫村、西方ニア
 ル張嶺ニ於テハ石炭ハ稍盛ニ稼行セラル、炭層ノ厚サハ區々ナルモ概
 シテ十四尺ヨリ二十四尺ノ間ニアリ、澤州ノ北約二十五基米ニアル大

陽附近ハ石炭ヲ產出スルニ於テ名アリ、書院頭、梨川、大箕、五門、司取山、二十里鋪等ニ於テ稼行セラル、石炭ハ厚サ十二尺乃至三十尺アリ、陽城縣ニ於ケル炭層ハ七尺ヨリ十尺ノ厚サヲ有スルモ質良好ナラス、澤州附近ニ於テ採掘セラル、石炭ハ一年ノ產出額二百萬噸ナリト稱セラレ、其他ノ地方ニ於ケル總產出額ハ是ヨリ下ルコトナカルヘシ

平定府ハ北部ニアリ、此附近ノ炭田ハ其區域大ニシテ波狀ノ臺地ヲナシ、東方ニ緩斜ス、重要ナル炭層ハ二三百尺ノ地下ニアリテ總厚二十尺乃至三十尺ニ達シ炭質ハ良好ナリ、本層ハ北方孟縣ニ達シ南ハ樂平縣ニ至リ東ハ直隸省ニ於ケル井陘炭田ニ連リ廣大ナル波狀ノ臺地ヲナス、平潭川ノ南北ニ數多ノ炭坑操業ス、買地溝、莊口溝、鐵路溝ニ於ケル石炭ハ良質ニシテ炭層ノ厚サ約十八尺アリ、燕子溝ニ於テハ新式ノ採掘法ニ依リ稼行シ買地溝、莊口溝ニ於テモ亦其準備中ナリト云フ、榮家溝停車場ノ南約二十七基米ナル壽陽縣ニ於ケル榮家溝坑ハ亦厚サ九尺及七尺ノ二炭層ヲ採掘ス、產出額ハ次ノ如シ

年 別	產 額	年 別	產 額
千九百八年	二、二〇〇噸	千九百十年	二一、〇〇〇噸
千九百九年	五、六〇〇		

同地方ニ於ケル莊水溝及殷王鎮ニ於ケル炭層亦重要ニシテ後者ハ厚サ約十八尺アリト云フ、孟縣ニ於テハ馬家地及清城鎮ニ於テ石炭ヲ產ス、平定州ニ於ケル一日ノ產額百噸ナリト云フ

平定炭田ハ南澤州ニ連續セルモノナルヘキモ此兩者ノ間ニハ盛ニ稼行セラル、處ナシ

炭質及炭量 炭質ハ各地異ニシテ之ヲ總括スルニ難キモ概言スレハ沁嶺山脈ノ東方ニ頒布セル石炭ハ無煙炭ニ屬シ西方ニ於ケルモノハ有煙炭ニ屬ス、然レトモ分析表ニ示セルカ如ク必スシモ然ラスシテ一地方ニシテ兩種ノ石炭ヲ產スルモノアリ、分析表ニ見ルカ如ク無煙炭ハ平定府及澤州府ヲ中心トシ之ヲ圍繞シテ半無煙炭ノ區域アリ、更ニ

トス、本炭田ハ便宜上之ヲ三區域トナス、東區ハ修武縣ノ北方ヨリ北西ニ互リ李封ノ東四基米ニ至リ其間數多ノ炭坑散在ス、修武縣ノ北ヨリ夾炭層ハ東方輝縣ニ入り更ニ北方ニ彎曲シ大面積ヲ占ム、中區ハ其西ヨリ清化鎮ノ東約十基米ノ地ニ連レリ、其延長約十基米、幅四基米ニシテ百餘ノ炭坑此間ニ散在シ李封附近ノ石炭最モ著シ、清化鎮ノ東ニアル柏山、常口、焦昨ノ炭坑ハ一年約六十萬噸ヲ産スト云フ、西區ハ中區ニ境シ濟原縣ノ西部ヲ占有ス

支那ノ古法ニ依リ支那人ノ採掘スル炭坑ハ深サ隨所同シカラサレトモ概ネ百二十尺乃至四百尺ノ間ニアリ、炭層數多アルモ相互ノ關係ハ明ナラス、厚サ亦隨所異ニシテ概シテ二十尺乃至三十尺ナルモ處ニ依リ三四尺ナルモノアリ、清化鎮ノ背山寺ニ於ケル炭層ハ直ニ石灰岩上ニ坐シ東方八度ニ傾斜ス、修武縣焦昨炭坑ハ北京「シンヂケート」ノ稼行ニ係リ本炭田中最モ大ナルモノナリ、近時深サ七百十尺ニ於テ二十二尺ノ一炭層ニ會セリト云フ、産出額ハ千九百九年二十三萬千七百三十

一噸、千九百十年三十五萬七千二百五噸ナリシト云フ、柏山ニ於テハ二十四ノ炭坑深サ百二十尺乃至二百尺ノ坑内ニ於テ操業ス、産出額ハ一年約三萬噸ナリト云ヒ主ニ農閑ニ採掘ス、常口ハ清化鎮ノ東約八基米、焦昨炭坑ノ西約十基米ニアリ、此處ニハ八十餘ノ炭坑アリテ一日約六百噸ヲ産出シ一年ノ産額ハ二十一、二萬噸ナリト云ヒ尙漸次増加スルノ傾向アリ、石炭ハ良質ノ無煙炭ニ屬ス、炭量概算二億萬噸ナリトス

彰德府ノ石炭

湯陰炭田ハ彰德府ノ南西約四十基米、湯陰縣ノ西約三十基米ニアリ、基盤ハ石灰岩ニシテ之ヲ被覆シテ南北ニ延長セル含炭層アリ、延長六基米ヲ下ラス、本炭田ハ宣統三年頃ヨリ採掘セラレ現時一日ノ採掘量二百五十噸ナリト云フ、夾炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ黄土ニヨリ被覆セラレ、稼行ノ炭層ニアリ、上層ハ厚サ二十尺乃至三十尺ナリ、其下六七尺ニアル下層ハ厚サ約六尺ナリト云ヒ炭量概算二億萬噸ヲ下ラサルヘシト云フ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結シ品位良好ナリ

安陽縣豐樂鎮六溝河ハ湯陰炭田ノ北約八十基米、京漢鐵道ノ西約四十基米ニアリ、此地ノ炭坑ハ十餘年前ノ開坑ニ係リ現時一年ノ産額十萬噸ニ達スト云フ

黄河ノ南方ニ散在セル炭田

夾炭層ハ黄河及南陽ノ間ニ四箇處ニ散在シ東西ニ走レル太古層又ハ支那層ヲ被覆シ黄土ニ依リ被覆セラレ、鞏縣ノ南東約二十基米ニアル一炭層ハ厚サ六尺乃至十八尺アリテ深サ二百尺ニ於テ稼行セラレ其區域廣カラス、汝州、魯山縣ノ間ニハ二箇處ニ炭層ノ露出セルアリ、蘆庄ハ北方ニアリ、此處ニハ厚サ六尺乃至八尺ノ一炭層深サ約二百尺ニ於テ稼行セラレ其區域狹シ、春店ハ蘆山縣ノ北東約十二基米ニアリ、厚サ五尺乃至六尺ノ炭層深サ百五十尺ニ於テ稼行セラレ、炭層ハ之ヨリ西ニ連互シ東方ニハ寶豐縣ニ連レリ、炭質ハ有煙炭ニシテ變動ノ爲メ粉炭トナリ易シ、春店ノ北ニ於テ稼行セラレ、モノハ厚サ六尺乃至八尺ナリ、密縣及榮陽縣ニ於ケルモノハ其連續セルモノト思惟スヘキモノ

アリ、南陽縣及南召縣ノ間ニアル九龍山ヨリ東西ニ連互スル含炭層ハ北微東四十五度ニ傾斜ス、登封縣ノ南ニアル炭田ハ西ニ連リ宜陽縣ニ於テハ一年約十萬噸ノ石炭ヲ産出スト云フ、開封縣ノ南西端ニアル曲高里附近ニハ數多ノ炭坑散在シ炭質良好ナリ、一年ノ産額僅ニ數百噸ニシテ汝州、禹州ニ運搬販賣ス、石炭ハ又確山縣及偃師縣ニ産スト云フ

(五) 陝西省

小道河ハ紫陽縣ノ東ニアリテ興安府ノ西四十基米ニ位ス、此地方ニ露出スル石灰岩及頁岩ハ小道河ニ於テ北東十五度乃至四十度ニ傾斜ス、炭層ハ頁岩中ニ介在シ厚サ一尺ヨリ十二尺ノ間ニアリ、炭質ハ劣等ナリト雖モ交通便ナルヲ以テ稍盛ニ稼行セラレ、拜九下ハ平利縣、鎮平縣ノ間ニアル小村ナリ、曾家垣ハ其北西ニアリ、地質ハ石灰岩ニシテ頁岩ト互層ス、無煙炭ハ本層中ニ介在シ現ニ稼行セラレ、炭層ハ厚サ薄シ、興安府及平利縣間ノ地方ハ千枚岩及片岩ノ如キ變成岩ヨリ成リ二疊中生紀ニ屬スルモノ、如シ、石炭ハ本層中ニ介在シ平利縣ノ北方及東

方ニ於テ稼行セラル、地層ハ甚シク變動ヲ受ケタルヲ以テ採炭困難ニ
産額僅少ナリ、興安府及平利縣ノ街道ニ沿ヘル老縣ニモ亦石炭ヲ産ス

(六) 甘肅省

甘州ノ南東ニアル定羌及山丹ノ間ニ互レル石炭紀砂岩及頁岩ハ二三
炭層ヲ插間ス、石炭ハ甚タ小規模ニ稼行セラル、北東肅縣ニ近ク石炭亦
稼行セラル、蘭州府ノ南及北西ニ互レル地層ハ上部石炭紀ヨリ三疊紀
ニ屬スルモノ、如シ、本層ハ炭層ヲ埋藏ス、是等ノ諸炭田ニ關シテハ據
ルヘキ資料ニ乏シ

(七) 江蘇省

利國炭田

利國炭田ハ津浦鐵道ニ沿ヘル徐州府及利國縣ノ中間驛柳泉ノ東約十
基米ニアリテ利國ノ南東ニ位ス、炭田ヲ圍繞スル石灰岩ヨリ成レル丘
陵地ハ高サ稍高キモ百米ニ充タス、含炭砂岩層ハ石灰岩ヲ被覆シ黄土
ニ被覆セラレ其露出セル所少ナク臺地又ハ平地ヲナス

炭層ハ賈家汪ニ於テ探掘セラレ又之ヲ距ル約九基米ノ青山泉ニ於テ
嘗テ稼行セラレタリ、青山泉ニ於テハ層向、傾斜明ナラサレトモ其北ニ
露出セル石灰岩ト同シク東西ニ走り南方ニ急斜セルナルヘシ、賈家汪
ハ炭田ノ東部ニアリ、此所ニハ地層北東ニ走り北西ニ傾斜ス、傾斜ノ角
度ハ緩ニシテ北西ニ向ヒ次第ニ水平ニ近ク更ニ一基米半ニシテ石灰
岩ヲ被覆ス、此所ニハ地層南東ニ急斜シ向斜層ヲナセルカ如シ、即チ北
側ハ急斜シ南東側ハ緩斜ヲナス、炭層ニアリ、其相互ノ距離ハ約二十二
尺ニシテ厚サハ上層五尺、下層八尺ナリト云フ、本炭田ハ東西約十一基
米、南北約五基米、面積約五六十平方基米ニ互レリ、之ニヨリ炭量ヲ計算
スレハ概算二億萬噸ナリ

石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス分析ノ結果次ノ如シ

五尺層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
	二、四八	三〇、七三	四七、四六	一九、三三	〇、五五	一、四三七	五、八三〇	一〇、四九四	第三類				

八尺層	二二八	三二、七六	五三、九七	一一、九九	〇、六八	一、四二九	六六、二八	一一、九三〇	全
-----	-----	-------	-------	-------	------	-------	-------	--------	---

其他ノ炭田

蘇州ノ西方西山及上元縣林山ニハ硫黃及灰ヲ含有スルコト少ナキ良好ノ無煙炭アリ、西山ニ於テハ二ノ豎坑掘下セラレタリト云フ、石炭ハ品質及數量ニ於テ豐富ナリト稱セラル、モ僅ニ稼行セラル、ニ止マリ産額言フニ足ラス、丹徒縣及句容縣ニ於テモ亦石炭ヲ産ス、南京ノ東丘陵ニハ石灰岩中ノ粘板岩中ニ石炭ヲ埋藏シ南々西三十度ニ傾斜ス

(八) 安徽省

宣城炭田 ハ宣城ヨリ其南方ニ互リ約五十年前ニ發見セラレタリト云フ、地質ハ石炭紀ニ屬スル砂岩、頁岩ノ互層ニシテ二十度乃至三十度ニ傾斜ス、稼行スヘキ炭層三アリ、其厚サ三尺乃至十餘尺ナリトス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ概シテ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	性質	實種	種類
一、六五	一九、三九	五五、二〇	二、三七七	二、二二	粘結セス	第二類二	

一、一八	二四、四〇	五六、六九	一、七七三	三、八八	全	全	
〇、四〇	二五、四〇	五五、八〇	一、八四〇	二、三二	全	全	
〇、八七	一七、二八	六一、七二	二、〇一三	二、三八	粘結ス	全	

宣城ノ東方ニアル廣德州、西南西ニアル池州ノ石炭ハ宣城ノ連續ト思惟スヘキモノニシテ炭質全ク相同シ、炭層ノ厚サハ一尺乃至二十尺ナリト云フ、廣德州牛頭山ノ石炭亦著シトス、徑縣及繁昌縣ニ於テハ石炭ハ數箇所ニ露出スルモ未タ調査セラレス、徽州ノ西南西浙江省界ニモ亦石炭アリ、寧國ノ北ニアルモノハ半無煙炭ニ屬スト云フ

(九) 浙江省

桐廬炭田 桐廬縣ノ北方ニ紡錘蟲石灰岩露出ス、之ヲ被覆スル石炭紀砂岩、頁岩ハ桐廬縣附近ニ露出シ炭層ヲ挿間ス、夾炭層ノ層向ハ一般ニ北々東ニシテ東南東ニ傾斜スルモ炭層ノ賦存セル地域ニハ北西ニ走リ北東ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ區々ニシテ三十度乃至六十度ノ間ニア

リ、石炭ハ無煙炭ニ屬シ三箇處ニ露出ス、桐廬ノ北々西約二十五基米ニアル皇甫ノ石炭ハ一千九百四年ニ開坑セラレタルモ直ニ中止シ昨年再開セラレタルモ産額少ナク厚サハ一尺五寸乃至四尺ナリ、桐廬ノ南方約十基米ニ北ヨリ西ニ互レル石炭紀層中ニハ石炭ヲ埋藏スルモ炭質劣等ニシテ採掘スルニ難シ、此外餘杭縣及於潛縣等ニ石炭ヲ産スト云ヒ淳安縣ヨリ安徽省徽州ニ至ル間省界ニ近ク粘板岩中ニ石炭ヲ見ル、皇甫ノ石炭ハ粘結セス、其分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱		種類
								カロリ	英國熱單位	
二、三三	九、三六	六二、一六	二七、一五	〇、二六	一、六五〇	三、八五〇	六、九三〇	第一類二		
二、六四	八、八二	六三、二八	二五、二六	〇、二九	一、六二七	四、〇一〇	七、二八〇	全		
二、〇〇	八、八一	七〇、七七	一八、四三	〇、二九	一、五六六	四、二九〇	七、七三〇	全		
二、九九	八、六〇	六七、二七	二二、一四	〇、二八	一、五九四	三、七四〇	六、七三〇	全		

(一〇) 湖北省

湖北省ニ於テ石炭ヲ埋藏スル地層ハ上、中、下ノ三部ニ區別スルコトヲ得、下部ニ位スル地層ハ浸蝕作用ノ爲メ低平シ丘陵ヲナシ主ニ硅岩ヨリ成リ粘板岩及砂岩ト互層ス、本層中ニ介在セル炭層ノ採掘ニ堪フルモノハ厚サ普通四尺ノ一層ナリトス、中部ニ位スル地層ハ下部層ヲ整合ニ被覆スル厚層ノ石灰岩ニシテ粘板岩及砂岩ト互層シ本層ハ稍高キ山脈ヲナシ石炭採掘ニ便ナリ、本層ニ介在セル炭層ハ普通二層ヲ下ラス、厚サ三四尺ナリトス、中、下部層ノ地質年代ハ明ナラサレトモ蓋シ二疊紀前即チ石炭紀ニ屬スヘシト云フ、上部ニ位スル地層ハ中部層ヲ不整合ニ被覆スル砂岩、頁岩ノ互層ニシテ低卑ナル丘陵ヲナス、本層ニ介在セル炭層ハ普通二層ニシテ厚サ二尺ナリト云フ、地質年代ハ明ナラサレトモ蓋シ二疊中生層ニ屬スヘシト云フ、上部層ヲ被覆スルモノハ支那ニ廣ク分布セル赭色砂岩ナリトス、
興國州ノ南西約四五十基米、富水ノ一支流ノ上流江西省境界ニ近ク露

炭坑ハ二十年前ノ發見ニ係リ目下湖北省ノ官行ニ屬シ一日約二百噸ノ石炭ヲ採掘ス、地ハ金湖及海口湖間ニアル丘阜ニシテ主ニ硅岩、粘板岩ヨリ成リ約東西ニ走リ南方二十度ニ傾斜ス、蓋シ下部層ニ該當スルナルヘシ、石炭ハ粘板岩中ニ介在シ二層アリ、上層ハ稼行ニ堪ヘス、下層ハ目下採掘セラル、モノニシテ厚サ三尺乃至十尺ナリト云フ、延長明ナラサレトモ二三基米ハ連續セルモノナルヘク炭量概算七百萬噸ナリ、石炭ハ黃鐵鑛ヲ散點シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
一七五	10.10	七七.94	10.11	三.42	一.45	七	六.10	11.00	英國熱單位	第一類	二	

興國州ノ北ニ當リ謝喻ニ二箇所ニ稼行セラル、炭層ハ厚層ノ石灰岩中ニアル粘板岩中ニ介在シ南方四十度ニ傾斜ス、炭層ハ一層ニシテ山腹ニ露出シ海口湖ニ近ク運搬便ナリ、厚サハ六尺アルモ稼行スヘキ良好ナル部分ハ二三尺ナリト云フ

大冶ノ北下陸ニアル炭層亦厚層ノ石灰岩中ニアル粘板岩中ニ介在シ北方ニ急斜シ嘗テ稼行セラレタリ、厚サハ明ナラサルモ二尺内外ナリトス、其東揚子江沿岸ノ石灰岩附近ニアルモノ亦嘗テ稼行セラレタリ、厚サ明ナラサルモ三尺ヲ越エサルヘシト云フ

金湖ノ北東隅ニ近ク興國州ノ北大冶ノ東ニ當レル漳源口及北東揚子江附近ハ主ニ硅岩ヨリ成リ粘板岩、砂岩ト互層シ二炭層ヲ埋藏ス、下層ハ嘗テ採掘セラレタルモノニシテ北方又ハ北々東二十度ニ傾斜シ厚サハ二尺乃至六尺ナリト云フ

大冶ノ西保安湖ニ近ク尹家山ニ石灰岩中ノ粘板岩ニ介在セル炭層アリ、厚サ一尺五寸ナリト云ヒ嘗テ採掘セラレタリ、石炭ハ黃鐵鑛ヲ含有シ品質良好ナラス

大冶ノ北東ニ當リ揚子江沿岸ノ黄石港ノ南ヨリ西ニ連レル丘陵地ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ三炭層ヲ埋藏シ北々東二十度ニ傾斜ス、石炭ハ三箇處ニ稼行セラレタルモ農閑時々農夫ノ稼行スルニ止マリ産出額言フ

ニ足ラス、炭層ハ最東ニアル青山灣ヨリ西方新山ヲ經テ馬鞍山ニ連リ
 延長二基米半ニ達ス、最上層ヲ稼行シ厚サ二尺五寸、新山ニ於テハ中部
 炭層ヲ稼行シ厚サ一尺内外、最西ニアル馬鞍山ニ於テハ下層ヲ稼行シ
 厚サ二尺ナリトシ炭量概算百五十萬噸ナリ、黄石港ノ北々西華家湖ニ
 沿ヒ一炭層亦同一地層中ニ介在シ北四十度西ニ走リ南西六十度ニ傾
 斜シ厚サ四尺、普通稼行シ得ヘキ良炭部一尺内外アリテ現時試掘中ナ
 リト云フ、石炭ハ黃鐵鑛ヲ散點シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃比	重	發熱	英國熱單位	種	類
四〇五	七五二	六九六八	一八七六	一一二	一七八二	三、六三〇	六五三四	第一類二		
三、七六	六七〇	七四七六	一四七八	四三九	三、七二二	三、六八〇	六六二四	全		

揚子江沿岸蕪州ノ對岸牛角壠附近ハ主ニ硅岩ヨリ成リ粘板岩、砂岩ト
 互層シ北方ニハ北四十度西ニ走リ南西六十度ニ傾斜シ南方ニハ東西
 ニ走リ北二十度ニ傾斜ス、一炭層厚サ四尺乃至八尺アリテ嘗テ二箇所

ニ稼行セラレタリ、石炭ハ硫黃ヲ含有スルコト多ク品質劣等ナリ、蕪州
 ノ南方丘陵ニ同一地層中ニ介在セル炭層ハ小規模ニ採掘セラレ
 武昌府ノ南約五十基米、梁子湖及黃塘湖ノ間ニアル江夏縣楊家山炭坑
 ハ二十年前ノ開坑ニ係リ現時一日十六噸ノ石炭ヲ採掘スト云フ、地ハ
 一帯ノ平野ニシテ所々ニ低卑ナル丘陵散在ス、丘陵ノ上部ハ主ニ蠻岩
 ヲリ成リ南東四十度ニ傾斜ス、蠻岩ノ下ニ砂岩、頁岩アリ、砂岩中ニ二炭
 層介在スト稱スルモ下層ハ未タ探求セラレス、上層ハ現ニ稼行セラル
 ルモノニシテ厚サ二尺乃至四尺アリテ二基米ノ間之ヲ追跡シ得ヘク
 炭量二百五十萬噸ナリト云フ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結
 果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃比	重	發熱	英國熱單位	種	類
一、三七	一三五五	六六四七	一八、六一	三八二	一、五二二	六四九〇	一一、六八二	第二類二		

地質年代ハ明ナラサレトモ二疊三疊紀ニ屬スルモノナルヘシ、馬鞍山

炭坑ハ楊家山炭坑ノ西ニアリテ二十年前ニ開坑セラレ現時休止スル
 モ一時稍盛ニ稼行セラレ一日三百噸ヲ産出シタルコトアリ、炭層ハ楊
 家山ニ於ケルモノ、連續セルモノナルヘシト云フ
 歸州ノ下流揚子江沿岸ノ香溪口ヨリ南流セル香溪水ニ沿ヒ北二十度
 乃至三十度東ニ走レル炭層ハ香溪水ノ東西ニ隨所採掘セラレ延長約
 十六基米ニ互リ宜昌ニ於テ消費スル二三千噸ノ石炭ハ多ク此地ヨリ
 供給ス、香溪水ノ東方ハ直ニ石灰岩ノ臺地ニシテ含炭層ハ不整合ニ之
 ヲ被覆スル赤色砂岩、頁岩ヨリ成リ二疊三疊紀ニ屬スト云ヒ或ハ珠羅
 紀ナリト稱ス、其中ニ綠色ノ砂岩、頁岩ヲ挾ミ二炭層ヲ介有シ北二十度
 乃至三十度東ニ走リ西方二三十度ニ傾斜ス、厚サハ一定セサルモ各層
 二尺内外ヲ普通トシ炭量概算二千四百萬噸ナリ、農閑農民ノ採掘ニ係
 リ産出額多カラス、石炭ハ粘結性ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
一六二	二三八六	四九三四	二六、一九	〇、三八	一、五七七	五九〇〇	九九〇〇	第二類二				
									英國熱單位			

揚子江沿岸ニ露出スル砂岩、粘板岩ノ互層ハ灰色石灰岩ヲ挾ミ石炭紀
 層ヲ被覆シ二疊中生紀ニ屬スト云フ、炭層ハ石灰岩中ニ介在シ巴東縣
 ノ下流約八基米ニ甚タ小規模ニ稼行セラル、歸州ヨリ上流約三基米ニ
 アル六條ノ薄キ炭層ハ石灰岩中ニアリ、石炭ハ主ニ煉炭原料ニ供ス、歸
 州及興山縣ニ産スルモノハ有煙炭ナリト云フ

利川縣ノ北々西ニアル添油山ニ於テハ厚層ヲナセル砂岩、石灰岩上ニ
 坐シテ二三ノ炭層ヲ夾有ス、此地ヨリ四川省萬縣ニ至ル間石炭ハ處々
 ニ産出シ現ニ添油山及境界ニ近キ朗家垣ニ數多ノ炭坑アリ、武昌ノ南
 東約六十里、揚子江岸ノ枝江縣劉家廠ニハ炭層ハ約東西ニ走レリ、炭質
 ハ劣等ニシテ主ニ石灰爐ニ使用セラル、宣都及長陽ノ二縣ニモ亦石炭
 ヲ産出ス、此外房縣、南漳、巴東、當陽、京山、麻城及咸寧ノ諸縣竝ニ漢陽府桃
 花嶺ニ石炭ヲ産スト云フ、此外王岩、李土墩、康牛ニ厚サ三尺乃至二十五
 尺ノ炭層アリト稱セラル、モ不幸ニシテ是等炭田ニ關シテハ據ルヘ
 キ材料ナシ

(一) 福建省

福建省ニ於テハ石炭ハ處々ニ稼行セラル、モ運搬不便ナルヲ以テ未
タ盛ナルニ至ラス

邵武炭田

邵武縣ヨリ南西邵武、延平街道ニ沿ヒ約八基米ノ間ニ石炭紀層ノ露出
セルアリ、其兩端ハ花崗岩ニヨリ切斷セラル、此地ノ石炭ハ約十年前ヨ
リ探掘セラレ現今一日約五十噸ヲ產出ス、含炭層ハ北二十度東ニ走リ
幅八基米内外ナリ、岩層ノ上部ハ主ニ厚キ白色砂岩、下部ハ主ニ黑色頁
岩ヨリ成ル、邵武ノ東南東約十基米ニアル煤炭嶺ニハ含炭層ハ東方又
ハ西方ニ傾斜シ一向斜層ヲナス、傾斜ノ角度ハ三十度内外ナリトス、稼
行スヘキ炭層一アリ、厚サ約八尺ナリ、炭質ハ良好ノ無煙炭ニ屬シ硫黃
ヲ含有スルコト少ナク粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱		種
						カロリ	英國熱單位	
四、六七	四、七五	八四、〇七	四、三〇	二、二三	—	—	—	第一類一

龍岩炭田

龍岩炭田ハ東西ノ延長約八十基米、幅約四十基米ノ面積ヲ占メ龍岩州
及漳平縣ニ跨リ龍岩州盆地ハ炭田ノ中部ニ位シ更ニ永定、上杭、連城ノ
諸縣ニ連レルカ如シ、炭田ハ福建、江西二省ノ分水嶺ノ東方ニ波狀ノ臺
地ヲナシ其中央ニ北溪ノ走レルアリ、夾炭層ハ頁岩、砂岩ヨリ成リ紡錘
蟲石灰岩ヲ被覆ス、層向ハ概ネ北三十度東ナリ、傾斜ハ北西又ハ南東ニ
シテ向斜層及背斜層ヲナス、傾斜ノ角度ハ一般ニ急ナラスシテ三四十
度ナルモ稀ニ七八十度ニ達スルコトアリ、炭層ハ二層以上アリテ厚サ
二尺乃至四尺ナリ

龍岩州ノ西高原ヨリ北々東乃至南々西ノ方向ニ走レル炭層アリ、牛嶺
ニ於テ稼行スヘキ一炭層ハ厚サ四尺乃至五尺アリ、其露頭ハ龍岩州ヲ
抜クコト高サ五百尺以上ニ達シ北々東ニ連續セルカ如シ、本層ハ又牛
嶺ノ南西約五基米ニアル林山頭ニ連續セルカ如ク茲ニモ同種ノ炭層

四、五〇	四、七五	八六、九〇	三、八五	二、〇二	五、八八五	一〇、五九三	全
------	------	-------	------	------	-------	--------	---

アリ、本層ハ更ニ南西ニ進ミ龍門ニ連レルモ茲ニハ地層ノ變動ノ爲メ
 石炭ハ多ク粉碎セラレ加之傾斜甚タ急ナリ、石炭ハ尙南西ニ互リ蓋頭
 ニ露出シ更ニ永定縣ニ連レリ、本炭層ノ下ニ尙一炭層ノ賦存スルコト
 ハ疑フヘカラス、炭層ノ延長ハ處々ニ切斷セラルト雖モ三十五基米内
 外ニ達スヘク牛嶺、林山頭ノ間ニアル炭量ハ龍岩州平地以上即チ高サ
 五百尺、厚サ四尺ノ炭層二層アリト思惟スレハ概算三百萬噸ナリトス、
 蓋頭及永定縣ノ間ハ其面積前者ニ二倍シ炭量概算六百萬噸ナリ、更ニ
 地下千尺迄探掘スルモノトセハ炭量更ニ千八百萬噸ヲ加フ、即チ炭量
 概算總計二千七百萬噸ナリ
 龍岩州ノ北西小池ニハ一條ノ炭層石灰岩上ニアリテ前記炭層ノ上部
 ニ位スルカ如ク炭質ハ之ト相同シ
 牛杭ハ龍岩州ノ東約四基米ニアリ、此地ノ石炭ハ厚サ六尺以上アルモ
 時ニハ一尺未滿ニ縮迫シ變動ノ爲メ粉碎セラル、コト多シ、風恒岐、水
 龍潭、大吉及蘇邦ニ於ケル石炭ハ其連續ト思惟スヘキモ處々ニ斷層ニ

第五圖

龍岩炭田



依リ切斷セラルル、層向ハ西方ニ於ケル炭層ト殆ント相平行ス、傾斜ハ北方即チ蘇邦、大吉、水龍潭ニ於テハ西方若クハ北西ニシテ南方即チ風恒岐及牛杭ニ於テハ東方若クハ南東ナリトス、基盤ヲナセル石灰岩ハ處々ニ露出シ之ヲ被覆シテ石炭ヲ埋藏セル砂岩、頁岩ノ互層アリ、炭層ノ厚サハ二尺乃至四尺ニシテ追跡シ得ヘキ炭層二層以上アリ

牛潭ノ小丘ハ蘇邦ノ北西約十二基米ニアリテ厚サ四尺ノ炭層此地ニ露出シ北東ニ傾斜ス、炭質劣等ナリ、合溪口ノ南即チ龍岩州及漳平縣ノ境界ニモ亦石炭ヲ産ス

石炭ハ無煙炭ニ屬ス、牛嶺、林山頭、水龍潭、大吉、牛潭ノ石炭ハ塊炭多キモ龍門、牛杭ニテハ變動ノ爲メ粉碎セルモノ多シ、分析ノ結果次ノ如シ

全	牛嶺	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃種	類
五〇三	五〇七		三、七七	八五、六三	五、四三		第一類	
			三、四〇	八五、九三	五、一八		全	

本地方ノ調査ハ未タ不完全ナルヲ以テ炭層相互ノ關係明ナラスシテ炭層ノ數及其層位ヲ知ルニ難シ、想フニ西方ニ於ケル石炭ハ褶曲及斷

全	牛潭	全	大吉	全	全	水龍潭	全	林山頭	全
四、八三	五、二五	四、五四	五、一四	五、五一	五、五三	五、〇三	五、二〇	五、一八	三、九八
四、九七	三、二〇	三、八七	三、四七	三、九七	三、七二	三、九九	三、三四	四、〇三	五、三二
六四、二八	六八、八七	八六、四〇	八五、〇一	八一、六三	八四、七二	七五、五七	六八、一九	七二、五七	七〇、七一
二五、七三	二二、六八	五一、一九	六三、三八	八七、三	五、九三	一五、四一	二二、二七	一八、二二	一九、七九
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

層ノ結果ニ依リ東方ニ現ハレタルモノニシテ炭層ノ數ハ前述ノ如ク多カラサルナリ

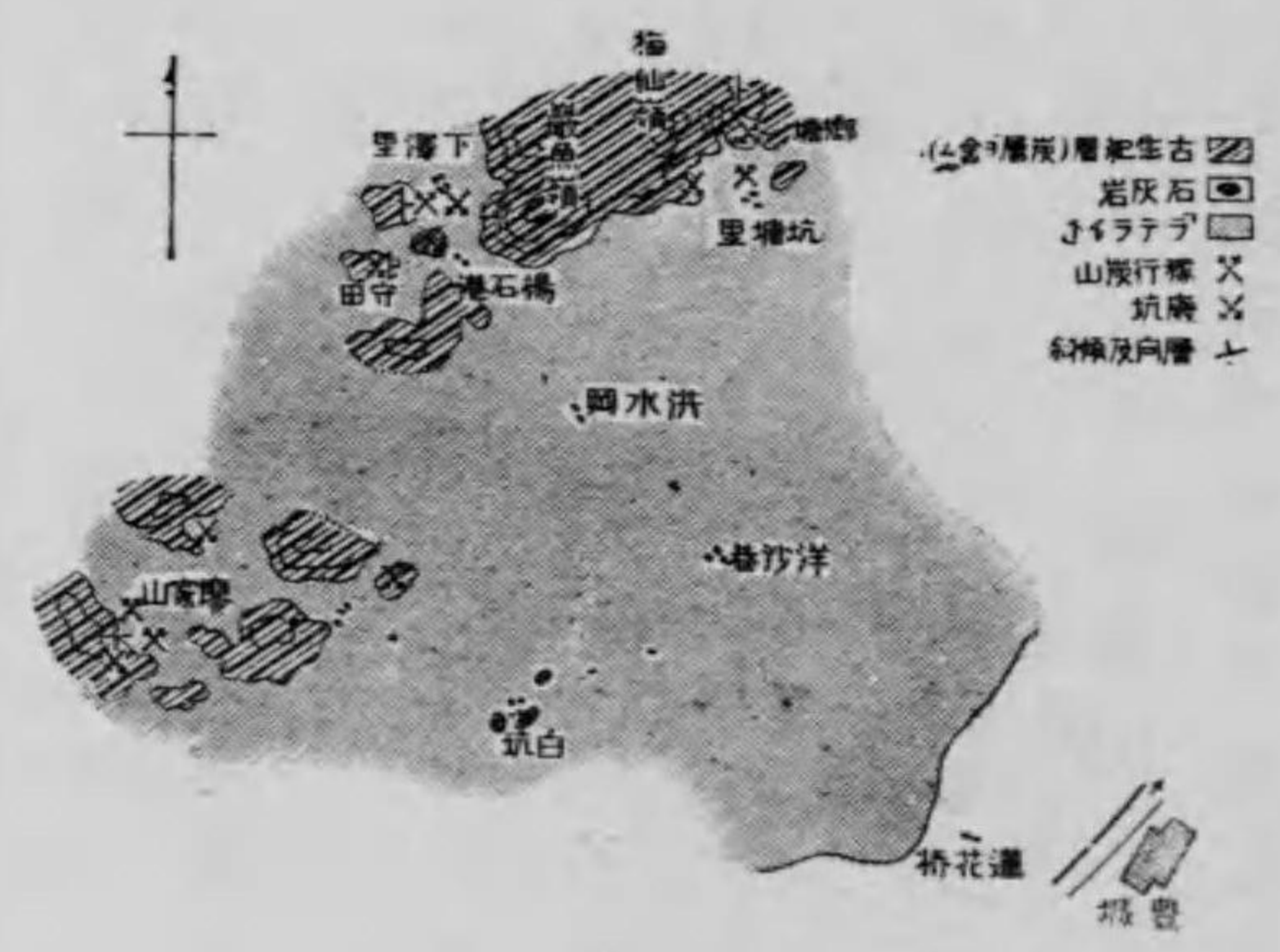
其他ノ炭田

建寧炭田 梨山ハ建寧府ノ東約十基米ニアリ、含炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成ル、稼行スヘキ一條ノ炭層ハ厚サ約六尺ニシテ薄條ノ夾ミヲ有シ北十度乃至三十度西ニ走リ西方四十五度ニ傾斜ス、石炭ハ無煙炭ニ屬シ質脆弱ニシテ塊炭ヲ得ルコト難シ
未調査炭田 邵武ニ於ケルモノト同層ニ屬スト思惟スヘキ炭層建陽縣及崇安縣ノ間ノ牛鳴潭、下梅、挾腰、張源壠ノ處々ニ露出ス、安溪縣珍冶郷ニモ亦石炭ヲ産スト云フ

(二) 江西省

江西省ニ於テ最モ著名ナル炭田ヲ萍郷トス、萍郷炭田ハ東方宜春、分宜、新喻、豐城ノ諸縣ニ連リ更ニ河ヲ超エテ李家渡ノ炭田ニ互リ其北東ニハ餘干、萬年、樂平、景德ノ諸炭田アリ、樂平ノ南東ニ玉山、廣豐、弋陽ノ諸炭

第六圖 豐城炭田 縮尺十二萬分之一



田アリ、此他省ノ中央ヲ東西ニ走レル大炭田アリテ湖南省ノ南部炭田ニ連レルカ如ク、蓮花廳ノ炭田ハ人ノ知ルトコロナリ、省ノ南部ニアル信豐ノ炭田ハ西方廣東ノ炭田ニ連レルナラン

豐城炭田

豐城炭田ハ郷塘、坑塘里、下澤里、守田、廖家山及南神嶺ノ諸村ニ跨リ豐城縣ノ北西及西方約七基米ノ間ニアリ、本炭田ハ二十年前ニ開發セラレ最近數年ノ間坑塘里ニ於テ稍盛ニ稼行セラレ四百餘ノ炭坑ニ基米ノ間ニ散在シ一年二萬噸ヲ産出シタリ、目下一日ノ採炭量二千噸ト稱セラル、モ各種ノ報告ニ徵スルニ年産額十萬噸ヲ超エサルヘ

シ、地勢ハ低卑ニシテ高サ約二三十米ノ小丘所々ニ起伏シ坑塘里附近ノ最高地モ僅ニ百米ニ過キス、基盤ハ石灰岩ニシテ含炭層之ヲ被覆ス、紅土ハ廣ク分布シ以上ノ諸岩層ヲ被覆シ隨テ岩石ノ露出甚々稀ニ岩層相互ノ關係ヲ知ルコト難シ、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ其層向傾斜一定セス、郷塘ニ於テハ傾斜ハ南東十五度、下澤里ニ於テハ南方若クハ南西、守田ニ於テハ東方、廖家山ニ於テハ南方ナルモ西方ニハ南東ニ轉ス、即チ地層ハ炭層ト共ニS字形ニ彎曲シ中央ニハ緩斜ヲナセル傾斜層ヲナス、南神嶺ノ西約十基米ノ猪母關ニ於テ亦數多ノ炭層アリ、炭層ノ厚サハ隨所異ニシテ郷塘ニ於テハ一二尺ノ炭層四十米ノ深サニ於テ、下澤里ニ於テハ七尺ノ炭層七十尺乃至百三十尺ノ深サニ於テ稼行セラル、石炭ヲ埋藏セル區域ハ東西約二十五基米、南北約八基米ニシテ二百平方基米ノ面積ヲ占メ炭量概算四億萬噸ナリ

新喻炭田

新喻炭田ハ相隣接セル大平廠、燕昌口ノ二村ニ跨リ前者ハ新喻ノ北々

第七圖

新喻炭田
縮尺十二萬分之一



東約二十四基米、後者ハ北十八基米ニアリ、本山ハ明朝ニ開發セラレ三十年前再開セラレタリ、現今一日ノ産出額僅ニ六十噸ニ過キス、地形、地質ハ豐城ニ於ケルト相同シキモ此地ニハ石炭ヲ埋藏セル頁岩上ニ疊岩ヲ挾メル厚キ砂岩ノ好露出アリ、層向ハ北六十度東ニシテ南東三十

炭田ハ波状ノ臺地ヲナシ南北ハ山脈ニ依リ圍繞セラレ萍川ハ殆ント炭田ノ中央ヲ流下ス、含炭層ハ萍郷附近并ニ河流ニ沿ヘル臺地ヲ構成シ主ニ頁岩ヨリ成リ砂岩及蠻岩ヲ挾ミ蠻岩ヲ有スル厚キ砂岩之ヲ被覆シ最下層ハ灰色ノ紡錘蟲石灰岩ナリトス、夾炭層ハ概シテ北東ニ走レルモ褶曲シ又ハ北西若クハ東西ニ彎曲スルコトアリ、傾斜ハ概シテ緩ナルモ時ニ急斜スルコトアリ、安源附近ニ於テハ層向北二十度乃至四十五度西ニシテ南西二十度乃至四十七度ニ傾斜ス、東方小丘ヲ越エテ紫家冲、黃家源ニハ層向北七八十度東ニシテ北方二十五度ニ傾斜ス、龍家冲、高坑ニ於テハ安源、三夾冲ニ於ケルト同層向ヲ有スルモ南々西十度乃至三十度ニ傾斜ス、水口、略下及劉公廟ニ於テハ層向約北東ニシテ北西又ハ南東ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ寧口急ニシテ四十度乃至六十度ナリトス、以上ノ事實ニ由リテ之ヲ觀ルニ地層ハ褶曲シテ向斜層又ハ背斜層ヲナシ又斷層ニ依リ切斷セラレタルヲ示セリ

炭田ノ東部及南東部ニ於テハ稼行スヘキ炭層七アルモ厚サハ處ニ依リ大差アリ、龍家冲ニ於ケル七炭層ノ厚サハ二尺五寸、三尺五寸、三尺、二尺五寸、三尺五寸、一尺及五尺ナリトス、坑内ニ於テハ第三層及第七層ハ八尺及十尺ニ膨大シ之ヲ採掘ス、其北ニアル高坑ニ於テハ此二層ハ縮迫シテ厚サ各一尺内外トナレリ、即チ炭層ハ四寸、八寸、九寸、四寸、六尺、一尺及四尺ナリトス、安源ニ於テハ下部ニ位スル六尺以上ノ二炭層ヲ稼行ス、砂市界及三夾冲ニ於テハ上部ノ炭層ヲ稼行シ三夾冲ニ於テハ厚サ一尺五寸、三尺及四尺ナリ、小坑ニ於ケル三層ハ厚サ四尺、三尺及二尺ナリトス、斯ク炭層ノ數及厚サハ隨所異ナレリト雖モ五尺以上ノ二炭層ハ稼行ニ堪フヘキモノニシテ其總厚ハ十尺ヲ下ラサルヘシ

炭田ノ北西部及西部ニハ二三ノ炭層ヲ檢スルノミ、此等炭層ハ互ニ相接近ス、其東部及南東部ニ於ケル炭層トノ關係明ナラサレトモ層位上ヨリ之ヲ見ルニ此等炭層ハ東部ニ於ケルモノ、上部ニ位スルモノ、如ク四層以上ノ炭層此等炭層ノ下部ニ伏在スルナルヘシ、略下ノ炭坑

ニ於テハ或ハ二尺、三尺及五尺ノ三炭層厚サ二十尺ノ地層中ニ挿間セラレ或ハ三炭層ハ薄キ夾ミヲ有スル一層トナリ厚サ十五尺ヲ有スルモノアリ、劉公廟ニ於ケル三尺、三尺及五尺ノ三炭層ハ相互ノ間僅ニ二三尺ヲ隔ツルノミ

炭量ニ關シテハ實測ノ以テ據ルヘキナケレトモ炭田ノ面積、炭層ノ厚サ并ニ傾斜ヨリ推測シテ三億萬噸ノ炭量ヲ有スト概算セラレタリ

石炭ハ良質ノ有煙炭ニ屬シ粘結シ骸炭ノ製造ニ適ス、色ハ黑色ニシテ光澤ヲ有シ質ハ脆弱ニシテ塊炭ヲ得ルニ難シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	磷	比	重	種	類
一、三五	二二、七三	五五、〇二	一九、五〇	〇、四五	—	—	—	—	—	第二類二
一、七〇	三〇、三三	六三、三四	四、六三	〇、四八	—	—	—	—	—	第三類
三、五〇	三三、五〇	五五、七五	七、二五	〇、四九	—	—	—	—	—	全
〇、九三	二五、九四	六八、八二	四、三一	〇、四六	—	—	—	—	—	第二類二

李家渡炭田

〇、九六	二六、六三	六八、三六	四、〇五	〇、六七	—	—	—	—	—	全
〇、八二	二〇、九三	六四、三三	二、九二	〇、四七	—	—	—	—	—	全
〇、九四	二二、三九	六九、九六	六、七二	〇、五二	—	—	—	—	—	全
三、一四	(水ヲ含ム) 二四、四三	六七、八二	七、七五	〇、一〇	〇、〇三	—	—	—	—	全

李家渡炭田ハ李家渡附近ニアル櫛山、小嶺、走馬嶺等ノ諸炭坑ヲ含ミ臨川縣ノ北西約四十基米ニアリ、櫛山ハ李家渡ノ南西約十六基米、小嶺ハ北約六基米ニアリテ臨川縣ニ屬シ走馬嶺ハ其北東約十六基米、進賢縣ノ南西約八基米ニアリテ進賢縣ニ屬ス、炭坑ハ高サ約百米乃至二百米ノ小丘上ニアリ、夾炭層ハ主ニ頁岩ニシテ厚キ砂岩之ヲ被覆ス、炭層ノ厚サ僅ニ一二尺ニ過キスシテ炭質劣等ナリ、層向ハ櫛山ニ於テハ北八十度東ニシテ概ネ北十五度ニ傾斜シ小嶺ニ於テハ北六十度東ニシテ北西二十五度乃至五十度ニ傾斜シ走馬嶺ニ於テハ北四十度西ニシテ

北東七十五度ニ傾斜ス、産出額ハ少量ニシテ一箇月僅ニ三十噸ヲ超エサルヘシ

以上舉クルトコロノ諸炭田ハ東西ニ走リ廣大ナル面積ヲ占ム、炭層相互ノ關係ハ未タ明ナラスト雖モ一ノ連續セル地層ニ屬スルモノナルコト疑フヘカラス、隨テ炭量ハ巨大ナルヘキモ其數量ニ就テハ未タ之ヲ概算スヘキ正確ナル材料ヲ得ス、前述セルカ如ク豊城炭田ノ炭量ハ概算四億萬噸、萍鄉炭田ハ三億萬噸ト稱ス、地質學上ノ關係及諸種ノ調査材料ニ基キ推測スルニ此等諸炭田ノ炭量ハ此兩炭田ノ總量ノ二倍ヲ下ルコトナカルヘシ、若シ然リトセハ此地方ノ石炭ハ揚子江ノ商港九江ニ下リ直ニ東洋ノ市場ニ供給セラル、ニ至ラン

汝州ニ於ケル炭田

樂平炭田 藕塘ハ樂平縣ノ南東約二基米ニアリ、藕塘ノ東西ニハ小丘ノ連嶺南々西ニ走レリ、西方ノ小丘ニハ砂岩ノ露出セルアリテ頁岩ヲ挾ミ北二十度東ニ走リ北西三十度ニ傾斜ス、石炭ハ藕塘ノ田畑中ニ稼

第九圖
樂平炭田
縮尺十二萬分之一

行セラレ地層東南東ニ傾斜シ一背斜層ヲナセルカ如シ、炭層三アリ、上層ハ十尺ノ深サニ於テ厚サ一尺、中層ハ百五十尺ノ深サニ於テ厚サ二尺、下層ハ二百五十尺ノ深サニ於テ厚サ八尺ナリトス、下層ハ質良好ニシテ硫黄ヲ含ムコト

少ナク現ニ稼行セラル、モ上部ノ二層ハ品位劣等ニシテ稼行ニ堪ヘス、一年ノ産出額ハ約二萬噸ナリトス

樂平ノ南約十二里ニ張家山、牛頭山アリ、茲ニハ地層北三十度東ニ走リ

南東ニ傾斜シ下部ニ疊岩アリ、之ヲ被覆セル砂岩ハ石炭ヲ埋藏ス、蓋シ藕塘ノ地層ノ連續セルモノナルヘシ
 紅鬢及裡腦炭坑ハ樂平ノ西約十基米ニ聳ユル明山ノ麓ニアル上碼頭ノ西二基米ニアリ、夾炭層ハ南北ニ走り西方ニ緩斜ス、二炭層アリテ上層ハ厚サ六七尺、下層ハ三十尺ナリト云フ、明山ハ高サ約百六十五米、東北東ヨリ西南西ニ向ヒ延長約十基米アリテ硅質砂岩ヨリ成リ東北東ニ走り西北西ニ傾斜ス、主要炭層ハ最下部粘板岩中ニアリテ厚サ五尺乃至十五尺ナリトス、上層ハ其上百尺ニアリテ厚サ一尺内外、炭質劣等ナリ、炭層賦存ノ面積四十平方基米、厚サ八尺五寸、比重一、二三ニシテ炭量八千萬噸ナリト云フ、本炭層ハ二十五年前稍盛ニ稼行セラレタルモ現今ハ排水ノ困難ノ爲メ廢業セリト云フ
 萬年及餘干炭田 樂平炭田ハ北東方萬年縣及餘干縣ノ炭田ニ連レルカ如シ、萬年縣ニ於テハ石炭ハ嘗テ稍盛ニ稼行セラレタルモ坑内出水多キヲ以テ遂ニ廢棄セラレタリ、餘干炭田ニハ高サ五十米乃至百米ノ

小丘處々ニ崛起ス、二三ノ炭層ハ小丘ノ下部ニ露出シ東北東ニ走り北々西ニ傾斜シ厚サ五寸乃至二尺ナリトス、本炭層ハ嘗テ稼行セラレタリ

興安炭田

興安炭田ハ胡家推、東村、官塘源等ノ諸炭坑ヲ包括ス、官塘源ハ興安ノ東約十四基米、胡家推ハ北約八基米、東村ハ胡家推ノ南西約四基米ニアリ、此外是等諸村ノ近傍ニ數多ノ炭坑散在シ十年前ヨリ家事用ニ稼行セラレ稍盛ナリシ時ハ一日約二十噸ヲ產出セリト云フ、現時炭坑ノ數多キニ關セス其產出額甚タ僅少ニシテ一日五六噸ニ過キス、本炭田ノ基盤ハ結晶片岩ニシテ石灰岩之ヲ被覆ス、夾炭層ハ主ニ下部ハ頁岩、上部ハ砂岩ヨリ成リ結晶片岩及石灰岩ヲ被覆ス、炭田ノ南部ニハ所謂赭色砂岩アリテ廣域ヲ占ム、花崗岩及石英粗面岩ハ處々ニ露出ス、夾炭層ノ層向ハ北三十度東ニシテ傾斜區々ナリ、現時知ラレタル炭層ハ其數少ナク胡家推ニ於テハ四十尺ノ坑内ニ於テ始メテ厚サ四五尺ノ炭層ニ

第十圖
興安炭田

縮尺十二萬分之一



會シ北西四十五度ニ傾斜
セリ、現時坑内ニハ水ヲ湛
ヘ入ルコトヲ得ス、炭層ハ
東村ニハ三層アルモ薄ク
唯厚サ四尺ノ一炭層下部
ニ存在スト云フ、地層ハ南
東五十度ニ傾斜ス、官塘源
ニ於テハ炭層ノ厚サ一尺
乃至十五尺ニシテ南東三
十度ニ傾斜ス、炭量概算千
五百萬噸ナリト云フ

未調査炭田
九江附近 品質劣等ナル
有煙炭ハ瑞昌縣老鴉尖ニ

於テ稼行セラレ家事用ニ供ス、瑞昌縣ノ南德安縣ノ境界ニ近ク傳家山
アリ、此處ニハ質良好ナル有煙炭アリテ小規模ニ稼行セラル、炭量豐富
ナラスト云フ、星子縣及德化縣ノ境界ニアル雪山嶺ニ於テ石炭亦タ稼
行セラル、德化縣ニ於テハ石炭ハ鄱陽湖ノ北西海岸ニ近ク稼行セラレ
萬年縣ニ於テハ鄱陽湖ノ南東隅ニ於テ稼行セラル、信豐縣ハ省ノ南部
ニアリ、此地ノ有煙炭ハ南西ニ連續セルカ如ク廣東省ニ連續スト云フ、
吉安府、廬陵縣、景德縣ニ於テハ石炭ヲ産シ興國縣、鉛山縣、建昌縣亦無煙
炭ヲ産出スト云フ、德興縣ニ於ケル炭田ハ樂平縣ノ連續セルモノナル
ヘシ

(三) 湖南省

湖南省ニハ數多ノ炭田アリテ東部ニ於ケルモノ主ニ稼行セラル、來陽
縣、常寧縣、祁陽縣ノ炭田ハ東西ニ走リ最モ重要ナリトス、炭層ハ概シテ
薄ク一尺内外ヲ普通トスレトモ時ニハ三四尺ニ膨大ス、三四ノ炭層三
四百尺ノ深サニ於テ稼行セラレ來陽ノ北ニアルモノハ厚サ二尺乃至

四尺ナリトス、是等ノ炭田ハ尙東方ニ連リ安仁縣ヲ通過シ茶陵縣ニ連レリ、以上炭田ノ南ニ永州、桂陽、郴州、永興、興寧、桂東諸縣ノ炭田アリテ亦東西ニ並列セリ、郴州ノ西ニ頒布スル石炭ハ變質セル粘板岩、砂岩層ニアリテ厚サ一尺乃至三尺アリ、炭質良好ナラス、永興ニ於テハ地層殆ント南北ニ走り東方五六十度ニ傾斜シ砂岩、粘板岩ヨリ成ル、炭層ハ層向ニ沿ヒ一基米餘追跡スルヲ得ヘク厚サ二尺乃至六尺アリ、石炭ハ無煙炭ニ屬シ粘結セス、宜章、臨武ノ炭田ハ省ノ最南ニアリ、新化炭田ハ省ノ中部ニアリテ厚サ二三尺ノ炭層三四ヲ埋藏ス、其東ニ湘鄉、湘潭、醴陵諸縣ノ炭田アリテ更ニ東方江西省萍鄉炭田ニ連續セルモノ、如シ、以上炭田ノ南北ニ廣域ヲ占ムル大炭田アルモ之ヲ記述スヘキ材料ナシ、而シテ粵漢鐵道沿線ノ南半ニ於テハ夾炭層ハ廣域ヲ占メ延長三百二十基米、幅九十七基米ノ面積ヲ有スト云フ、炭層ノ數ハ不明ナレトモ三層ハ之ヲ檢スルヲ得ヘク此外尙數層アルモノ、如シト云フ、石炭ハ無煙炭并ニ有煙炭ニ屬ス

炭質ニ關シテハ之ヲ知ルヘキ材料ナケレトモ來水ニ沿ヒ稼行セラルルモノハ無煙炭ニシテ湘江沿岸ニ稼行セラル、モノハ有煙炭ニ屬スト云フ、產出額ニ就テハ唯汝州ヲ通過スル「ヂャンク」ノ數ニ依リ之ヲ推定スルヲ得ルノミニシテ無煙炭ノ產出額ハ四五百萬噸ナリト稱ス石炭ヲ埋藏スル地域ハ五萬六千平方基米ヲ下ラスト稱ス、中容易ニ石炭ヲ採掘シ得ヘキ區域ハ三千餘平方基米ニシテ此區域ニ於ケル炭層ハ其數三以上ヲ數ヘ總厚十五尺以上ニ達スヘク之ニ依リ炭量ヲ概算スルニ百七十億萬噸ヲ得タリ

(一四) 四川省

越嵩ニ於テハ無煙炭ハ志留利亞系ト思惟スヘキ地層中ニ挿間セラル、炭質劣等ニシテ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃種	類
三七四	三五五	五三三八	三九三三	〇・四〇	第一類	一

雲南省ニ近キ會理ノ東ニアル無煙炭ハ土人ノ採掘スル所タリ、昭化ノ北古生代石灰岩中ニアル炭層ハ重要ナラス、大寧縣ノ北西、省ノ東隅ニアル大寧河ニ沿ヒ東官口、檀木樹林ノ二炭坑アリテ河ノ兩岸ニ稼行セラル、夾炭層ハ主ニ灰色石灰岩ニシテ頁岩ヲ挾ミ河流ニ沿ヒ向斜層ヲナス、石炭ハ概シテ頁岩中ニアルモ時ニ石灰岩中ニ介在シ厚サ三四尺アリ、綦江縣始土ニハ二疊紀ト思惟スヘキ地層ニ石炭ヲ埋藏シ中生代ノ炭層ト相接シテ露出シ貴州省ニ連續スルモノ、如シ

(一五) 貴州省

石炭紀層ハ威寧縣ノ東部ニ互リ雲南省東川縣ニ連リ石炭ヲ夾有ス、現ニ稼行スル炭層ノ厚サハ三尺乃至五尺ナリ、威寧縣ノ東約十五基米ノ地ニハ石炭ハ稍盛ニ稼行セラレ威寧ニ於テ販賣ス、四川省ノ境界ニ近ク分布セル桐梓縣ノ北ニハ厚サ二三尺ノ一炭層アリテ二疊紀ニ屬スルモノ、如シ、桐梓縣ノ附近亦同時代ノ含炭層ヨリ成リ北東ヨリ南西ニ走レリ、永寧縣及安南縣ニハ古生代ノ石炭ヲ産スト云フ

石炭分析ノ結果ハ次ノ如シ

威寧	桐梓	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃性	質種
〇.七二	一.〇三		二二.四八	七〇.六〇	三.八〇	一.八三	粘結ス	第二類二
			二二.一九	七〇.五二	一三.一四	二.二三	粘結セス	全

貴陽府附近ニ於テハ石炭ハ稍盛ニ稼行セラル、含炭層ハ北東ヨリ南西ニ走レリ、安順府ノ石炭ハ貴陽府附近ト同一地層中ニ埋藏セラレ土民之ヲ稼行ス、擘節縣附近ニハ石炭ハ處々ニ産出シ質良好ナリト稱セラ、遵義府及大定府北部間ノ地方ニハ處々ニ石炭ヲ産シ甸都府及印江縣ニモ亦石炭アリ、含炭層ハ二疊三疊紀ニ屬スト云フ
石炭ハ無煙炭又ハ半無煙炭ニ屬ス、分析ノ結果次ノ如シ

貴陽	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃性	質種
	〇.三五	一八.八八	七二.三三	五.八四	二.六〇	粘結ス	第二類二

安順	二六九	一〇四六	七三、四九	一三、二六	二〇、五	粘結セス	第一類二
翠節	二、九四	九九五	七九、〇〇	八、八〇	〇、二九	全	全

二九四

(一六) 雲南省

宣威ノ東ニ稼行セラル、石炭ハ主ニ其地方ノ亞鉛爐ニ供給セラル、雲南府ノ北約二十五基米ノ地ニ石炭紀石炭アリ、大關、昭通縣、東川縣及阿迷州ニモ亦古生代石炭ヲ産スト云フ、東川ノ石炭分析ノ結果次ノ如シ

東川	一、五六	七、二	六四、四五	二六、八七	二、四	粘結セス	第一類二
全	〇、五〇	一五、一〇	六五、七四	一八、六七	〇、四〇	全	第二類一

(二) 中生代ニ於ケル石炭

(一七) 直隸省

大安山及王平溝炭田

前記述セルカ如ク馬鞍山及大安山ノ北即チ北京ノ西ニ石炭ヲ挟有スル石炭紀層ハ北方ニ二疊紀若クハ三疊紀ニ屬スヘキ砂岩、頁岩ニ被覆セラレ更ニ其北ニ之ヲ被覆シテ砂岩、頁岩ヨリ成レル下部珠羅紀層アリ、層向ハ北東、傾斜ハ北西又ハ南東ニシテ向斜層ヲナス、二疊紀若クハ下部三疊紀ト思惟セラルヘキ地層中ニハ十餘ノ炭層アレトモ處依リ其數少ナシ、北京ノ西、楊山ノ南東ニアル「ヤンキアファン」ニハ砂岩、頁岩ハ南々東三十度ニ傾斜シ四炭層ヲ挟ミ厚サ最モ厚キ處十尺餘アリテ稼行セラル、大安山嶺ノ北ニハ數多ノ炭坑アリ、北方ニ於テ稼行セラル、下部珠羅紀ノ石炭ハ「ツァイタン」及煤嶺ノ間ニ數箇所ニ稼行セラル、「ツァタン」ニ於テハ地層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ西北西四十度ニ傾斜ス、炭層四アリ、上層ハ薄ク第二層ハ五尺乃至九尺、第三層及最下層ハ一尺乃至三尺ニシテ時ニ五尺ニ膨大スルコトアリ

鷄鳴堡炭田

鷄鳴堡炭田ハ宣化府ニアリテ宣化府及北京間ノ街道上ニ横ハリ「ライ

二九五

アス」紀ノ砂岩、頁岩ヨリ成リ石炭ヲ埋藏シ東微南四十五度ニ傾斜ス、千九百九年ニハ約六千五百噸ノ石炭ヲ北京ニ輸送シ一年ノ産額約五萬噸ナリト云フ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量		種類
								カロリ	英國熱單位	
二、六八	二六、三〇	五六、〇六	一四、九六	〇、三七	一、四九四	五、七八〇	一〇、四〇四	第一類二		
四、〇〇	三七、七〇	五一、〇四	七、二六	〇、二六	一、三四六	六、七二〇	一一、〇七八	第三類		

新邱炭田

新邱炭田ハ阜新縣ニアリテ新民府ノ西北西約百二十基米ニ位シ約十五年ノ前ニ開發セラレ千九百七年マテニ約三萬五千噸ヲ産出セリ、現時一日ノ産出額ハ五六十噸ナルモ目下事業擴張中ニシテ一日四五百噸ヲ出炭シ其完成ノ日ハ一日千噸以上ヲ出炭スルノ豫定ナリト云フ、炭田ハ波狀ノ丘陵地ニシテ片麻岩ヨリ成レル山嶽ニヨリ圍繞セラレ延長東西約十三基米、幅約八基米ノ盆地ヲナス、基盤ハ各種ノ片麻岩ニシ

第十圖
新邱炭田
縮尺十二萬分之一



テ北東ニ走リ概ネ北西ニ傾斜スルモ炭田ノ北側ニハ南方ニ變シ含炭層ハ恰モ其向斜盆地上ニアリ、含炭層ハ砂岩、頁岩、疊岩ヨリ成リ砂岩ハ上部ニ厚ク下部ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ數多ノ炭層ヲ埋藏ス、層向ハ北東ニシテ二背斜層及一向斜層アリテ其幅一基米半餘、延長約四基米半ナリト云フ、傾斜角ハ時ニ急ニシテ七十度ニ達シ時ニハ殆ント水平ナルコトアルモ一般ニ南部ニハ三十度内外ニシテ北部ニハ之ヨリ緩ナリ、其地質年代ハ之ヲ明言スルニ難キモ蓋シ中生層ニ屬スルモノナルヘシト云フ、重要ナル炭層三アリ、厚サ二尺ヨリ數十尺ニ達シ變化甚タシ、上層ハ西端ニハ二三尺ニシテ二條ノ

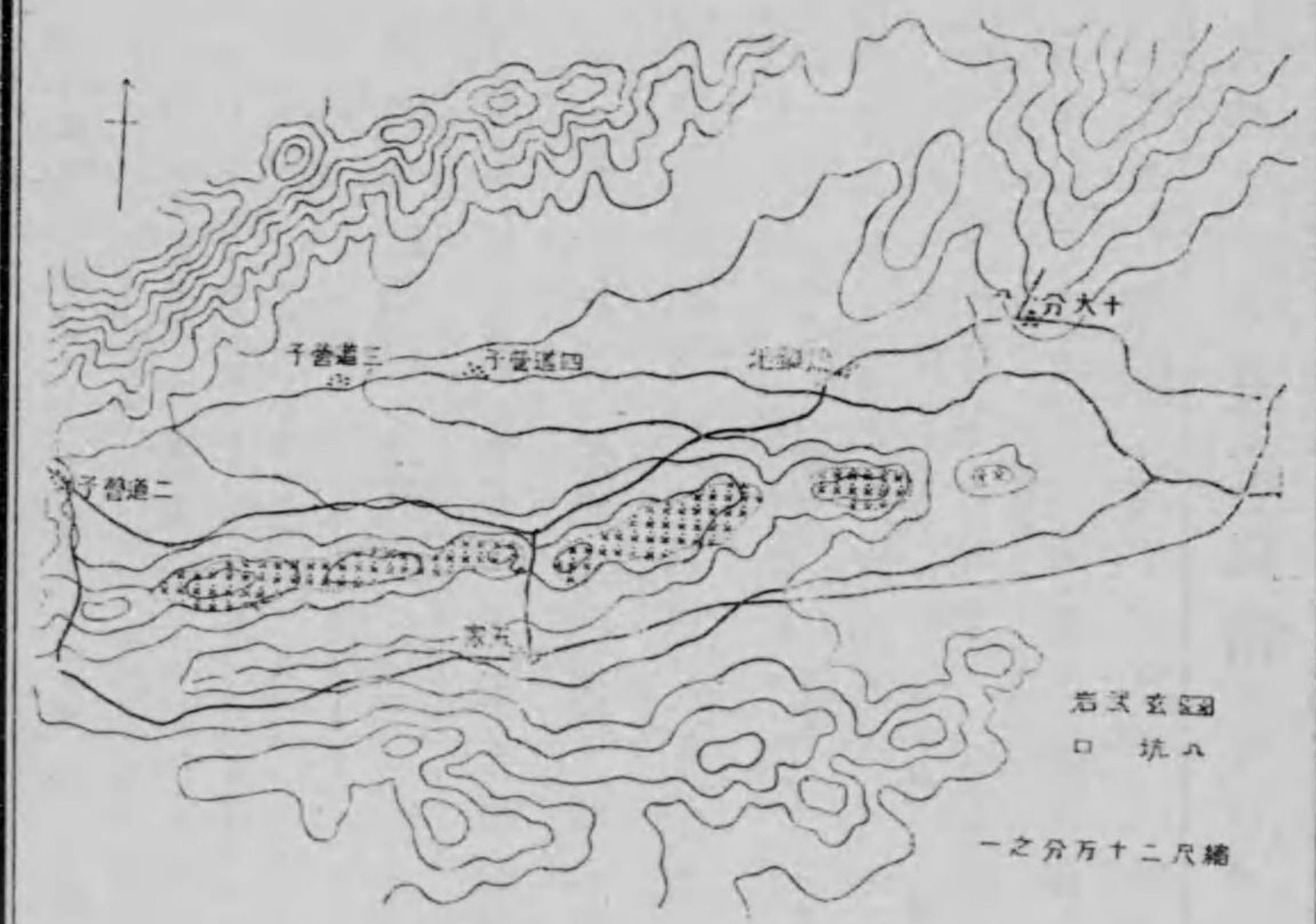
夾ミヲ有スルモ東方ニ次第ニ厚ク中部ニハ十二尺ニ膨大シ更ニ東方ニ數多ノ薄層ニ縮迫ス、其平均厚サハ五尺ヲ下ラサルヘシ、中層ハ上層ノ下約八十尺ニアリテ亦中部ニ厚ク兩端ニ薄ク厚サ二尺乃至二十尺平均八尺ナリトス、下層ハ中層ノ下七十尺ニアリテ最モ重要ナル炭層ナリ、其厚キトキハ二三ノ夾ミヲ有スルモ厚サ八十尺ニ達ス、西方ニハ薄キモ尙十二尺アリ、其平均厚サハ二十五尺乃至三十尺トス、即チ稼行スヘキ炭層ノ總厚ハ三十八尺ヲ下ラサルヘシ、而シテ延長四基米、傾斜ニ沿ヒ幅一、五基米ノ面積ハ容易ニ稼行スルヲ得ヘク炭量概算一億二千萬噸ナリ、石炭ハ漆黒ニシテ僅ニ粘結シ長煙ヲ發シテ燃燒シ質堅硬ニシテ塊炭ヲ得ルコト難カラスト云ヒ下部ニ於テ炭質最モ良好ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

七層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量	英國熱單位	種類
七層	一四、〇	三一、〇	五一、五	三、五	〇、四	—	—	—	—	—	第三類

五家炭田

全	一四、〇	二九、五	四八、五	八〇	痕跡	—	—	—	—	—	全
全	七、三六	三五、九六	五〇、七六	五、九二	〇、九二	一、三五四	六二二五	一一、二八七	全	全	
全	五、八九	三〇、六一	五七、三〇	六、二〇	〇、七八	一、四七四	六二七〇	一一、二八六	全	全	
中層	一、〇六	三五、三五	五三、一七	一〇、四二	二、八一	一、三三一	五八三〇	二〇、四九四	全	全	
全	七、五七	三七、八八	五二、四〇	二、一五	〇、六四	一、二九六	七二六〇	一三、〇六八	全	全	
全	八、三三	三五、五二	四八、六三	七、五二	一、四四	一、三二六	五八三〇	一〇、四九四	全	全	
全	九、〇	三五、〇	四七、〇	九、〇	—	—	—	—	全	全	
下層	八、七〇	三六、八三	四六、六八	七、七九	〇、六七	一、三四〇	五五〇〇	九九〇〇	全	全	
全	一、一四	二五、六	五七、八	五、二痕跡	—	—	—	—	全	全	
全	四、五	三六、一	四七、八	一、一六	—	—	—	—	全	全	
全	一、二、八九	三四、九九	四八、五二	三、六	〇、五九	—	—	—	全	全	

圖二十第
田炭分大十及家五



五家炭田ハ赤峰縣ノ南々東約四十基米ニアリテ約百五十年前ニ開發セラレタリト云フ、六炭坑ノ現ニ稼行セルアリテ一年二千五百噸ヲ產出ス、地ハ波狀ノ高原ニシテ厚キ黄土ヲ以テ被覆セラル、含炭層ハ中生層ニ屬シ丘陵地ヲナシ玄武岩之ヲ貫通シテ噴出ス、地層ハ變動ノ爲メ及火山岩噴出ノ結果層向傾斜一定セサレトモ第十三圖ニ示セルカ如ク概シテ北二十度乃至三十度西ニ走リ南

三〇〇

圖三十第
田炭家五部東
一之分千五萬一尺縮



概算十億萬噸ニ達シ内三億四百萬噸ハ確實ニ採掘シ得ヘキモノナリト云フ、石炭ハ褐色ノ有煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱量	種類
一七、九四	三四、三〇	四三、五九	四、一七	〇、四八	五、〇六〇	九、一〇八	第三類
						カロリ	英國熱單位

三〇一

十大分炭田

十大分炭田ハ西方五家炭田ニ接シ數多ノ舊坑アルモ其沿革ニ關シテハ知ルヘキナク現時一日約三十噸ヲ產出ス、地形及地質ハ全ク五家炭田ニ同シケレトモ地層ハ五家ノ下部ニ該當スルモノ、如シ、層向傾斜ハ變化多ケレトモ概言スレハ地層ハ北二十五度東ニ走リ西北西二十五度ニ傾斜ス、稼行スヘキ炭層三アリ、厚サ五尺五寸、五尺及三尺トス、炭層賦存ノ推定地域ハ約二百四十四平方基米、炭層ノ總厚十二尺ニシテ炭量概算十一億四千萬噸ニ達スト云フ、石炭ハ五家ニ於ケルモノト同シキモ粘結性弱シトス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱	種
一五三七	三七三九	四〇一九	七〇五	一五五	五、三三五	九、六〇三	第三類
					カロリ	英國熱單位	
					五、六三三	一〇、一三八	第三類

其他ノ炭田

大烈山及小烈山炭田 ハ平泉州ノ東三十基米ニアリテ近時ノ開發ニ

係レリ、產出額未タ僅少ニシテ一箇月十五噸ニ過キス、地ハ砂岩、頁岩及石灰岩ヨリ成レル波狀ノ臺地ニシテ中生層ニ屬ス、炭層一アリテ北六十度東ニ走リ北々西三十度ニ傾斜ス、炭層ハ厚カラシテ品質良好ナラス、石炭ハ亦大烈山ノ西及灤平縣八道河ヲ中心トシテ十二基米ノ内ニ產スト云フ

七家子炭田 ハ清河邊門ノ北約五基米、長城外ニアリ、約二十年前ニ開發セラレ目下產出額僅少ナリ、炭田ハ清河ノ西岸ニ沿ヘル波狀ノ丘陵臺地ニシテ主ニ砂質凝灰岩ヨリ成リ約東西ニ走リ南方五度乃至十度ニ傾斜ス、二炭層中上層ハ厚サ一尺以上アリ、下層ハ現時稼行セラレ上層ノ下三四十尺ニ位シ厚サ二三尺ナリ、含炭層ノ地質年代ハ未タ明ナラサレトモ中生層ノ下部ニ屬スルモノナルヘシ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱	種
三、二二	二七三	四六、九	二二、六八	〇、二二	五、六三三	一〇、一三八	第三類
					カロリ	英國熱單位	
					五、六三三	一〇、一三八	第三類

未調査炭田 水溝炭田ハ喀喇沁ノ境界附近ニアリ、四炭層約二平方基
 米ノ面積中ニ露出スト云フ、産出額ハ明ナラサレトモ税額ニヨリ之ヲ
 察スルニ其量少ナカラサルカ如シ
 石炭ハ朝陽ヲ中心トシ約六十五基米中ニ處々ニ露出ス、即チ興隆溝、
 自嶺、鳳凰城等ハ朝陽ノ北、南及東ニアリテ石炭ヲ産ス、炭質ハ無煙炭ナ
 リ

北京、張家口鐵道ニ沿ヒ處々ニ石炭ヲ産ス、宣化府、蔚州、西寧縣、保安州及
 石城縣ニアル炭層ハ中生層ニ屬スルカ如シ、隆化縣及昌平縣ニ於ケル
 石炭モ亦同時代ニ屬スト云フ

(一八) 山西省
 「ツムル」炭田

「ツムル」炭田ハ大同府ノ北東約百基米、長城外ニアリ、含炭層ハ主ニ頁岩
 ヨリ成リ下部珠羅紀ニ屬スルカ如シ、層向ハ北五十度西ニシテ北東十
 八度ニ傾斜ス、炭層ノ厚サハ約五尺ナリ、石炭ハ一部無煙炭ニ、一部有煙

炭ニ屬ス

大同炭田

大同炭田ハ大同府ノ西ニアリテ丘陵地ヲ成ス、基盤ハ石灰岩ニシテ含
 炭層之ヲ被覆ス、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ數多ノ炭層ヲ埋藏シ
 下部珠羅紀ニ屬スト云フ、層向ハ北三十度東ニシテ北西ニ傾斜ス、傾斜
 ノ角度ハ基盤石灰岩ニ近ク三十度ヲ超ユルコトアレトモ之ヲ遠サカ
 ルニ從ヒ次第ニ緩斜トナリ遂ニ殆ント水平層ヲ成スニ至ル、炭田ハ北
 東ヨリ南西ニ互リ延長九十七基米、幅二十四基米ノ盆地ヲ占有シ更ニ
 南方ニ互リ懷仁縣ニ連レルカ如シ、「ラシエルク」ハ大同府ノ西南西ニ位
 ス、三炭層アリ、上層ハ薄キモ時ニハ膨大シテ稼行セラル、コトアリ、第
 二層ハ上層ノ下約二百五十尺ニアリテ厚サ三尺乃至六尺ナリ、下層ハ
 最モ厚ク第二層ノ下約百五十尺ニアリ、「ハイクツ」ハ前者ノ南西約十基
 米、大同府ヨリ約二十五基米ノ地ニアリ、此地ノ炭層ハ厚サ二三十尺ニ
 達スルコトアルモ塊炭ヲ得ルコト難シ、石炭ハ外觀無煙炭ノ如キモ長

石後	〇四二	一九二七	七二二	八三〇	一〇五	一三九五	七〇九五	二二七二全
----	-----	------	-----	-----	-----	------	------	-------

石炭ハ金華府、蘭溪縣、常山縣、遂安縣、建德縣、衢州、温州ニ産スト云フ

(二) 江西省

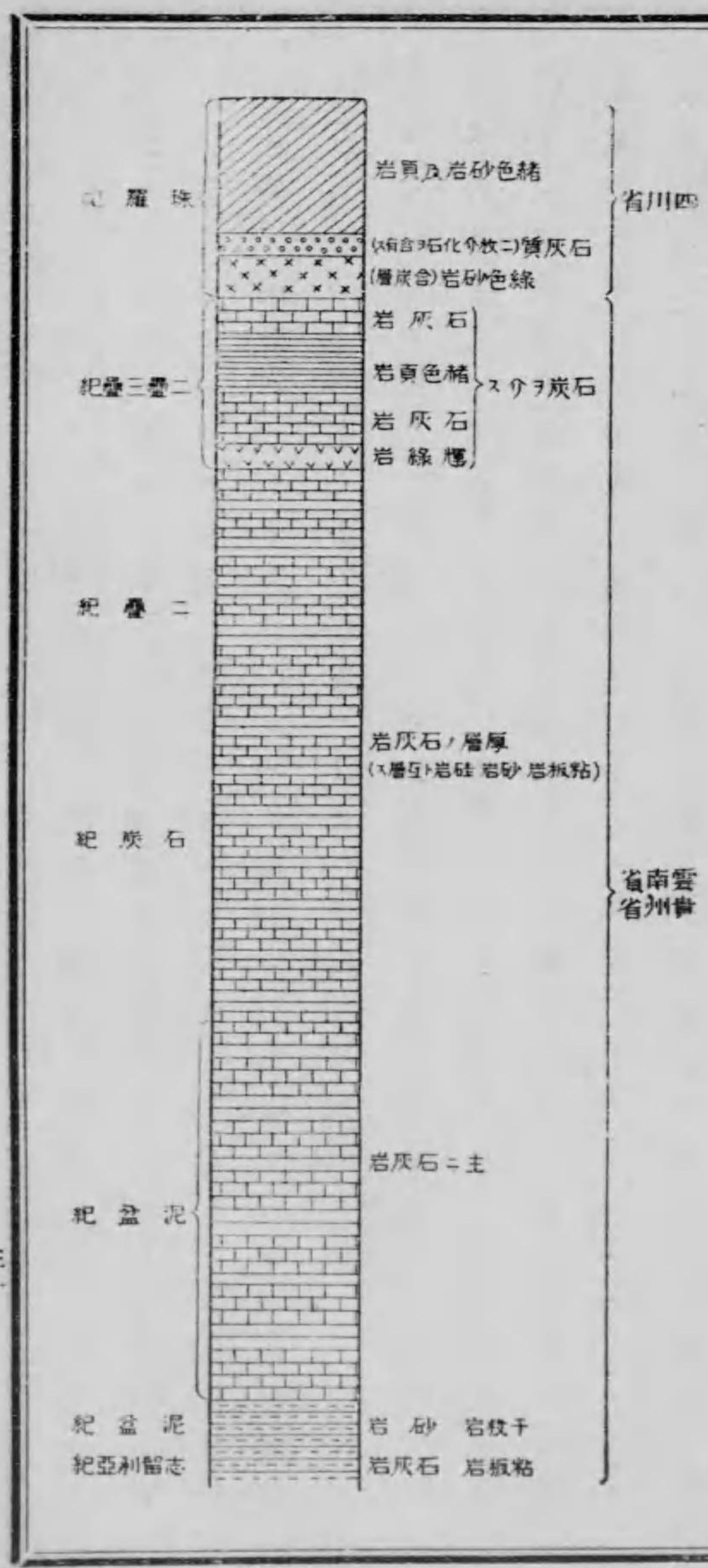
玉山縣ニハ中生代石炭ヲ産シ西方廣豐縣ニ連レリ、蓋シ浙江省常山縣ニ於ケルモノ、連續ナラン

(二) 四川省貴州省雲南省

貴州省、雲南省ニ於ケル廣大ナル臺地ハ遙ニ四川省ニ連リ四川省ノ中央ニ成都ノ大盆地アリ、基盤ハ千枚岩、砂岩、粘板岩及石灰岩ニシテ泥盆紀及志留利亞紀ニ屬スト稱ス、之ヲ被覆シテ甚タ厚層ヲナセル石灰岩アリ、下部ハ泥盆紀ニ屬シ上部ハ粘板岩、砂岩、硅岩ヲ挾ミ石灰岩ヲ介有シ石炭紀若クハ二疊石炭紀ニ屬スト云フ、之ヲ被覆セル厚層ノ石灰岩層ハ中部ニ赭色頁岩、下部ニ輝綠岩ノ岩床ヲ挾ミ亦石炭ヲ介有ス、本層ハ二疊三疊紀ニ屬スヘシ、貴州省、雲南省ニ於ケル炭層ノ大部分ハ以上二層中ニ埋藏セラル、モノナリ、是等ノ地層ハ連續シテ沈積セシモノナ

ルヤ明ナラス、且ツ石炭ノ品位モ之ヲ定ムルニ難シ、四川省ニ於テハ前記石灰岩ヲ被覆シテ綠色砂岩アリ、本層ハ廣域ヲ占メ石炭ヲ介有シ珠羅紀ニ屬スト云フ、四川省ニ於ケル主要ナル炭層ハ此地層中ニアリ、數

第十七圖



多ノ二枚貝化石ヲ有スル石灰質ノ地層ハ砂岩ヲ被覆ス、赭色砂岩ハ最上層ニシテ主ニ赭色砂岩ヨリ成リ赭色ノ頁岩ヲ有シ亦廣域ヲ占ム、即チ以上三省ニ於ケル炭層ハ各異ナレル地層中ニ埋藏セラル、モノナリ、地層ハ褶曲スルコト甚タシク隨テ炭層ハ此廣大ナル地域内ニ數度現出ス、地層ノ層序ハ第十七圖ニ示セルカ如シ

四川省中部ニ於ケル大炭田ハ東方遙ニ湖北、陝西及甘肅ノ三省ニ互リ約全省ノ半面積ヲ占ム、厚層ヲナセル砂岩ハ頁岩ヲ挾ミ基盤ヲナセル石灰岩ヲ被覆ス、砂岩層ノ地質年代ハ未タ明ナラスト雖モ三疊紀ヨリ珠羅紀ニ互レル年代ヲ代表スルモノナラン

成都盆地ヨリ東方ニ於ケル地層ハ甚シク褶曲シテ數多ノ向斜層ヲナシ其數十五ヲ下ラサルカ如ク北々東ヨリ南々西ニ併走スルモ北方ニハ北西ニ轉シ遂ニ約東西ニ轉位ス、傾斜ノ角度ハ稍急ニシテ普通四十五度以上ナリトス、炭層ノ厚サハ五寸ヨリ四尺ノ間ニアリテ平均一二尺ナリ、石炭ハ背斜層ノ兩翼附近又ハ揚子江及其支流ノ沿岸附近ニ稼

行セラレ其數甚タ多ク悉ク枚舉スヘカラス、左ニ產地ヲ列舉スヘシ

夔州、雲陽縣、萬縣、忠州、綏定府、梁山縣、梁山縣文家垵、大竹縣清溪鋪、渠縣、長壽縣、江北縣龍王洞、巴縣風門壩、銅梁縣、大足縣、永川縣、榮昌縣、榮縣、石柱縣、涪縣、南川縣、綦江縣、綦江縣培土、江津縣等ナリ

南川縣、綦江縣及江津縣ニ於テハ炭層ハ厚サ七尺アリト稱セラル、モ品質寧ロ劣等ナリ

含炭層ハ西方成都ノ盆地ニ沒シ更ニ北西灌縣ニ露ハレ南々西榮經縣ニ連リ同縣廣泥鋪ヲ經テ南東屏山縣ニ至リ東北東ニハ廣元縣ニ連リ北部ニハ三四尺ノ炭層ニアリ、而シテ此廣大ナル區域ニ於テ石炭ハ諸處ニ稼行セララル、即チ屏山縣、犍爲縣、峨眉縣、灌縣、彭縣、羅紅縣、江油縣、昭化縣、廣元縣等是ナリ、「フイサンク」ハ廣元縣ノ十五基米ニアリ、三炭層砂岩、頁岩ノ互層中ニ介在シ北八十度西ニ走リ南十八度ニ傾斜ス、此地ニ接近セル「チャウチン」ニハ一炭層砂岩中ニ介在ス、昭化ノ北ニアル炭層ハ薄クシテ厚サ二尺ヲ超エス、彭縣及灌縣ノ石炭ハ良質ナレトモ厚サ三尺

ニ滿タス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結シ骸炭ノ製造ニ適シ成都ノ市場時
 ニ雅州ニ供給ス、榮經縣附近ヨリ榮經川ニ沿ヒ南西約二十餘基米、黃泥
 舖ニ至ル間所々ニ産出スル石炭ハ良質ノ無煙炭及有煙炭ニ屬シ厚サ
 二三尺アリ、榮經縣及屏山縣間ニハ石炭ハ諸處ニ探掘セラレ殊ニ揚子
 江沿岸ヲ然リトナス、石炭ハ亦揚子江ノ南部珙縣及永寧縣ニ産出スト
 云ヒ敘州ニハ二炭層アリト云フ、石炭ハ品質良好ノ有煙炭ニシテ普通
 鐵熔鑛爐及石灰爐ニ供用シ又薪炭ノ代用ニ使用ス
 石炭ハ時ニ粘結シ時ニ粘結セスシテ處ニ依リ異ナレリ、分析ノ結果次
 ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	性	質	種
永川	一、五二	二五、五八	六〇、九四	一一、九六	〇、六二	粘結ス	粘結ス	第二類二
龍王洞	一一、〇〇	二八、三〇	六五、〇五	五、一〇	〇、四六	粘結セス	粘結セス	全
彭	二、三四	三七、七八	五八、二三	一、六五	〇、一五	粘結ス	粘結ス	第三類

榮	灌	昭	榮	基江
經	化	化	江	江
一、五五	一、八三	一、五六	一、八三	二、一六〇
三四〇〇	三三、六九	三三、七六	二六、六九	一〇、一五
五五、一三	六三、八四	四八、八八	六〇、二八	七、六五
九三三	一、六四	一、六八〇	一一、二〇	一一、八〇
〇、六九	〇、四四	五、二〇	〇、六八	一、六四
粘結ス	全	粘結セス	全	全
第三類	全	全	第二類二	第一類二

赭色砂岩盆地ハ鹽源縣ニ小區域ニ露出ス、其下ニ位スル地層中ニ石炭
 フ埋藏ス

龍王洞炭坑 ハ一尺五寸乃至一尺八寸ノ炭層ヲ稼行シ一日七十二噸
 フ産スト云ヒ或ハ一年約七萬噸ノ無煙炭ヲ産出スト傳フ、而シテ全省
 ニ於ケル稼行炭坑ニヨリ推測スルニ全省ノ一年ノ産出額百萬噸ニ達
 スヘシ

炭量ニ關シテハ之ヲ計算スヘキ材料ニ乏シ、然レトモ炭田ハ北東―南
 西ノ延長約四百餘基米、北西―南東ノ幅約三百二三十基米、面積約十二

萬九千平方基米ノ地域ヲ占ム、既述セルカ如ク含炭層ハ褶曲シテ十條以上ノ背斜層ヲ反覆ス、其傾斜ハ普通三十度ヲ超エ時ニ直立スルコトアリ、而シテ炭層ノ厚サハ一般ニ二尺ナリ、隨テ地下深ク即チ地下千尺以下ニ石炭ヲ採掘スルコト困難ナルヘク茲ニ地下千尺即チ背斜軸ヨリ傾斜ノ方向ニ八百米ノ間稼行シ得ヘシト思惟スルトキハ延長ハ四百基米ノ十倍、幅ハ一、六基米ナリ、厚サハ種々ナレトモ安全ヲ計リ二尺ノ三炭層即チ六尺ノ炭層ヲ稼行スルモノトシ計算セルニ炭量概算百五十億萬噸ナリ

雲南省 雲南府ノ西方及北西ニアル赭色砂岩盆地ハ大姚及姚ニ於ケルモノト共ニ稍大ナル面積ヲ占ム、石炭ハ赭色砂岩ノ下ニ位スル地層中ニ介在シ珠羅紀ニ屬スト稱ス、平彝縣ニモ亦石炭ヲ産ス

(三) 廣東省及廣西省

廣東省及廣西省炭田ニ關シテハ目下據ルヘキ材料ナク唯單ニ其產地ヲ記述スヘシ

廣東省 歸善縣、花縣、西嶺、翁源縣、樂昌縣、始興縣、乳源縣、坪石、陽山縣、塘峪嶺、德慶府、陽春縣、廉州及澄海縣

韶州ノ北西約二十基米ニアル煤炭庄ニハ石灰岩ヲ被覆セル石炭紀砂岩、粘板岩アリテ南東十度乃至十五度ニ傾斜シ四五ノ炭層ヲ埋藏シ其厚サ一尺乃至五尺ナリトス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結セス、一日ノ産出額百四五十噸ナリト云フ、本層ハ東北東ヨリ西南西ニ連互スルカ如シ

廣西省 賀縣、富川縣、梧州、南寧府及百色廳
賀縣大嶺ニ炭層九アリ、厚サ第一層三尺、第二層二尺、第三層五尺七寸、第六層一尺五寸、第七層四尺、第八層八尺、第九層三尺ニシテ一日ノ産出額約二十噸ナリト云フ

大正三年一月十三日印刷
大正三年一月十三日發行

(定價金貳圓七拾錢)

著作權所有 農務省

印刷者 東京市神田區通新石町三番地 田中市之助

印刷所 東京市神田區通新石町三番地 陽堂

電話(本局九七〇)

發賣所 東京市神田區通新石町三番地 陽堂

發賣所 會社 東

振替口座東京三三四三六番

地質調查所新刊圖書

一	同	七	福	村	同	壹	木	長	平	廣	敦	壹	一	七	金	松
戶	戶	戶	江	上	上	岐	曾	崎	戶	島	賀	岐	戶	戶	澤	山
圖	上	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖
幅	說	幅	幅	幅	說	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
地	明	地	說	說	明	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
質	質	質	明	明	質	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形
圖	書	圖	書	書	書	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖
定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價
歐和	歐和				歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和	歐和
各	各				各	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
金四	金貳	金四	金參	金四	金四	金參	金參	金參	金參	金參	金參	金參	金參	金參	金參	金參
拾五	拾五	拾五	拾七	拾七	拾八	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五	拾五
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

發 賣 所
 東 陽 堂
 會社資
 町石新通區田神市京東

地質調查所新刊圖書

鑛物調查報告第十二號(北海道ノ部)

定價金參圓拾壹錢

後志國及渡島國鑛床調查報文
 渡島國龜田郡尻岸内村砂鐵調查報文
 同國茅部郡及膽振國山越村郡

大日方技師
 大日方技師

同 上第十三號(北海道ノ部)

定價金五拾六錢

四十五年度 鑛物調查ノ概要(附圖三葉)
 大正元年度

伊木技師

同 上第十四號(北海道ノ部)

定價金壹圓貳拾錢

北見國宗谷郡、天鹽國天鹽郡產油地調查報文
 天鹽國幌延炭田調查報文(附圖六葉)

小林技師
 小林技師

同 上第十五號(北海道ノ部)

定價金壹圓

北海道北東部地質調查報文(附圖一葉)

岡村技師

同 上第十六號(北海道ノ部)

定價金七拾錢

天鹽國遠別及築別地方地質調查報告
 石狩國札幌郡定山溪附近地質及鑛物調查報告(附圖二葉)

渡邊技師
 渡邊技師

發賣所
 東陽堂

會社資
 町石新通區田神市京東

F-3X57

終